

極地研究センター記事

News Bulletin of the Polar Research Center

「極地研究センター記事」の掲載について

村山雅美

国立科学博物館に極地学課が設置され、現在の極地研究センターに至るまで既に十年を経ている。しかしその間の経緯についての記録は「南極六年史」に一部記載されている他まとまったものは皆無である。

よって極地研究センターが担当する極地に関する科学の研究並びにその資料の収集・保管等その活動と南極観測事業について極地研究センターが行なう協力業務に関する事及び南極観測隊に関する記事を、昭和47年5月10日の編集委員会の了解を得て「南極資料」に掲載することになった。

本44号には極地研究センター設置の経過と現状、その機構と業務、南極観測隊および輸送支援の経過等の記録をまとめ、今後毎会計年度初号の「南極資料」に極地研究センターおよび南極観測隊に関する記事を「極地研究センター記事」として掲載するので極地研究センター年報もしくはニュースとして利用されたい。よって本44号には昭和47年3月31日現在の状況を記してある。

1. 極地研究センター設立の経緯と現況

(1) はじめに

国際地球観測年（IGY）事業として昭和31年に開始された南極観測は、IGY終了後も引き続き実施されてきたが、昭和35年9月の閣議了解により、第6次を以て中断されることになった。その後の南極観測の実施および従来の観測によって得られた資料の措置等について南極地域観測統合推進本部（以下南極本部という）で検討していたが、昭和36年5月22日日本学術会議は、南極観測実施によって得た資料の整理、保管、研究等を行なうため「極地研究所」（仮称）を庶務、観測、設営、資料の4課人員20名の規模を以て、文部省の既設の機関（たとえば国立科学博物館）の付属機関として設置することを政府に勧告した。

(2) 国立科学博物館極地学課の設置

①従来の臨時的体制では南極観測事業実施の中核の欠如が本事業の継続に障害となっていたことに鑑み、日本学術会議からの「極地研究所」設立の勧告にこたえ、昭和37年度において国立科学博物館（以下科博という）に常勤労務者振替による定員3名を以て科博2号館4階に資料室兼事務室をおき発足した。

②昭和37年5月15日、日本学術会議は南極観測再開とその措置として、これを恒常的事業として実施するにふさわしい常置的な実施中核機関等の確立を政府に勧告した。

③南極観測再開の必要性を認めた政府は、昭和38年度予算に南極観測事業再開準備費を計上すると共に、極地学課に2室をおき4名の増員が認められ定員7名となり、事務室を団体休憩所2階に移した。

④昭和38年8月14日の南極本部総会において南極観測再開にあたっては、準備の中核機関として極地学課を拡充してこれにあたらせることを決定した。

⑤同年8月20日の閣議において南極観測事業は昭和40年を目途に再開することを決定した。

⑥同年9月23日、科博に南極観測事業に関し、観測、設営等南極観測の実施に必要な計画ならびに観測成果の整理、公表等について調査審議するため科博館長の諮問機関として南極観測計画専門委員会がおかれ、極地学課は再開準備の中核体として活動を開始した。

⑦南極再開準備の進捗に伴い、新観測船のエンジンと航空機の発注に要する経費が、昭和38年度予備費に、また39年度予算において船体建造費、航空機購入費を含む南極観測事業費が計上された。

(3) 「科博付属極地研究所」設立の要求と科博極地研究部の設置

①昭和39年5月20日、南極本部総会において、極地学課を母胎とする「科博付属極地研究所」の実現を期することが了承され、また同年6月15日、日本学術会議南極特別委員会（以下南特委という）は再開後の南極観測の基本方針と実施基本計画案を決定したことに基づき、研究観測並びに適当な業務官庁が得られない定常観測及び設営全般について極地学課が担当することになった。

②同年7月11日、南極本部副本部長会議において、昭和40年南極観測再開にあたり、南極観測の実施ならびに極地に関する科学の研究中核機関として「極地研究所」設立の必要性が確認され、すみやかにその実現を期することとなった。

③南極観測再開の実施について、輸送は運輸省の協力を得て防衛庁があたるものと、昭和38年8月20日の閣議で決定されていたが、昭和39年12月24日第43臨時国会において、自衛隊による南極支援の法律改正が通過した。一方昭和40年度予算に、研究部（4室23名）、観測部（1室4名）、事務室（所長を含む22名）計49名よりなる「科博付属極地研究所」を科博が一時使用中の旧東京第2造兵廠（板

橋区加賀）あとの用地に設立することを要求したが、部長、室長、研究官等4名の増員を得て、定員11名よりなる極地研究部が昭和41年4月1日新設されるにとどまった。

(4) 「国立極地研究所（センター）」設立の要求と科博極地研究センターの設置

①「科博付属極地研究所」設立については、昭和33年5月日本学術会議による自然史研究センター設立の勧告に基づく科博の研究部充実と競合することに鑑み、昭和40年7月7日南極本部連絡会は、文部省所轄機関として「国立極地研究所」の設立を決定した。

②昭和41年度予算において「国立極地研究所」として極地研究部現員11人振替を含む49人及び観測隊員振替21人を含む29人、合計78人を要求したが、3名の増員にとどまった上、定員削減1名の割当により現員13名となった。

③ついて昭和42年度予算要求においては、完成を2年次計画とし、初年度極地研究部現員13名および観測隊員29名計42名振替を含む59名とし、完成時は事業部（1課1室及び専門職）、研究部（4室）および庶務部の3部よりなる定員78名を要求したが、1名の増員を得て、14名の現員を数えるに終わった。

④南極観測事業の実施中核機関としての実体を確立するため、昭和43年度、44年度予算要求においては、文部省所轄機関「国立極地研究センター」として2年次計画を以って完成することとし、初年度極地研究部現員14名および観測隊員29名計43名振替を含む59名、完成時は3部3室定員80名を要求したが、実現をみるにいたらなかった。

⑤「極地研究所（センター）」の実現が難渋している時、昭和44年6月14日南特委は「極地研究所」の設立について次の見解を表明した。すなわち、南極観測事業の中核体として実施、研究、資料の保管、使用者の利便、各分野の研究者の総合連絡をはかる機関とし、相当の量及び質の研究者をもつ必要があり、共同利用的性格を具備することを「極地研究所」に要望した。

⑥上記の要望並びに南極条約の下において、恒久的な観測体制の確立と観測の実施にかかわる業務を集中的に行なう必要のため、昭和45年度予算において3年次計画を以って「国立極地研究センター」の設立を要求した。初年度は事業部、研究・資料部及び庶務課2部2課3室とし、振替43名を含む50名、2年次には庶務部を加える3部制定員63名、完成時には同じく3部制定員96名として要求した。しかし、所轄機関としての要求は認められず、観測隊員定数である特殊職員29名を含む振替43名に新增3名合計46名を以って、科博に半独立の極地研究センターの設置が認められた。

⑦昭和45年4月17日、文部省設置法施行規則の一部改正により、極地研究部を改組し、極地研究センターが科博本館に設置された。極地研究センターは極地に関する科学について調査研究をおこない、資料の収集、保管、利用と南極観測について事業計画案の作成、南極観測隊の編成の準備その他の協力を行ない、極地研究センターが南極観測について行なう協力に関する重要事項について、文部大臣が任命する30名以内の企画委員において、所長は助言をうけるものとされた。

⑧同年8月4日、科博が一時使用中の旧東京第2造兵廠あと（板橋区加賀1-9-10）の用地5,870m²および建物並びにこれに隣接する施設を補修し、その本館945m²を所長室、事務室、事業部、研究・資料部にあて、観測隊員室のみを本館団体休憩所2階にのこし移転した。なお隊員室は昭和46年度出発に係わる観測隊から板橋へ移った。

⑨同年9月14日、文部大臣裁定による企画委員規程が制定され、南極観測について極地研究センターが行なう協力に関する重要事項について所長に助言するため、29名の企画委員が任命された。

⑩同年11月16日、南特委主任幹事会は、南特委は、極地研究センターの設置、企画委員会議の発足に伴い、その任務を南極観測の基本方針の答申・建議に関する審議、研究基本

計画の審議、SCARの対応体としての任務の遂行、内外学術機関との連絡等にしぼり将来は日本学術会議研究連絡委員会へ移行するものと決定した。したがって南極観測にかかわる年次計画、予算案及び実施計画案の審議、隊長、副隊長、隊員の推せん等従来南特委が担当して来た業務的任務は企画委員会議へ移譲されることになった。

⑪昭和46年度予算においては、極地研究センター整備第2年次の要求として、南極観測についての協力その他の事業に係わる重要事項についての企画及び調整に参画するための企画官、設営調査研究の充実等を図るため研究員、事務職員を要求したが、企画官1名の増員にとどまり、現員47名となった。

⑫昭和46年6月29日の閣議決定により、南極観測事業の恒常化と極地研究センターの設立にともなう企画委員会議の発足に基づき、南極本部の構成員の変更と、従来日本学術会議が行なって来た南極観測隊長、副隊長および隊員の推せん事務ならびに研究題目の公募等を含む南極観測事業の実施業務の多くの部分が極地研究センターに移譲された。

⑬当初3年次計画を以って完成するものとして発足した極地研究センターは、その拡充計画を昭和45年度を初年度とする5年次計画に改めざるを得なかった。よって第3年次要求として昭和47年度予算において、観測計画案の作成及び観測隊編成の準備等についての協力体制を強化するため、事業部5名、事務室2名合計7名を要求したが、事務職員3名の新增を得て、定員50名となった（表1）。

(5) 極地研究センターの現況

①昭和47年3月31日現在の定員は、所長、企画官、事務長の下に総務係計4名、極地事業部は部長、主任研究官1名、企画業務係2名、設営調査係2名の計6名および特殊職員29名、計35名、極地研究・資料部は部長、超高層物理学ならびに生物に主任研究官2名と研究員1名および観測資料室に事務職員2名、

計6名, 合計46名である(表2).

②極地研究センターにおいては, 現在極地に関する科学のうち超高層物理学, 地学, 生物学の研究ならびに設営の調査研究にあたり, 極地に関する資料の収集・保管と極地に関する研究成果について「南極資料」, 「欧文報告(Scientific Report)」, 「データレポート」の刊行並びに南極観測事業の普及等を行なっている. また南極観測事業の実施についての南極本部への協力および観測隊編成の準備等について, 地球物理, 生物についての定常観測, 極光・夜光, 地磁気, 電波, 宇宙線, 気象, 生物・医学, 地球化学, 地理・地形, 地震・

重力, 雪氷, 地質, ロケットバルーン等についての研究観測, 設営については建築, 土木, 機械, 燃料, 食糧, 医療および観測隊員の訓練等また外国基地派遣隊員等に関する南極観測事業費にかかわる業務を担当している.

③上記の業務遂行のため, 企画委員会議(総会2回, および総合部会を隔月, 宙空, 地学, 生物・医学, 設営の各部会を適宜), 専門委員連絡会を必要に応じ, 各分科会又は連分科会として開催する他, 南極地名付与のため南極地名委員会, 南極観測隊の観測報告の編集にあたるため観測報告の編集委員会をおいている.

表1 極地研究センター年度別予算及び人事異動一覧表(昭和37~46年度)

区 分	金 額	定員総数	異 動 内 容	定員外職員
昭和37年度 人に伴う経費 人件費 庁費	千円 747 679 68	3人	古田逸子(7.1) 守川公子(7.1) 佐野雅史(6.1) 守川公子退職(38.3.31)	
昭和38年度 人に伴う経費 人件費 庁費 南極資料整備 一般研究	6,787 2,107 1,969 138 4,020 660	7	村山雅美(7.16) 松田達郎(8.1) 川口貞男(9.16) 古田逸子退職(39.3.31)	守川公子(4.16) 守川公子退職(6.30)
昭和39年度 人に伴う経費 人件費 庁費 南極資料整備 一般研究	10,025 4,966 4,876 90 3,619 1,440	7	小川登(4.1) 松里房子(4.1) 小川登死亡(40.1.3)	渡辺希久子(5.1)
昭和40年度 人に伴う経費 人件費 庁費 南極資料整備 一般研究	13,531 7,059 6,791 268 3,619 2,853	11	星合孝男(4.1) 金田栄祐(4.1) 細谷昌之(7.1) 村越望(12.1) 稲垣勝之(12.1) 楠 宏(41.1.1) 原田喜代子(41.1.1) 細谷昌之転出(40.10.31) 原田喜代子退職(41.3.31)	
昭和41年度 人に伴う経費 人件費	18,502 10,540 10,306	13	天田信夫(4.1) 柴野造成(4.1)	阿部雄太(4.2) 高根恒子(4.2) 市川福次郎(2.13)

区 分	金 額	定員総数	異 動 内 容	定 員 外 職 員
庁 費	234			高根恒子退職 (12. 12)
南極資料整備	3, 619			阿部雄太退職 (42. 1. 31)
一 般 研 究	4, 343			
昭 和 42 年 度	22, 137	14	喜納淳 (7. 1) 長谷川慶子 (10. 10)	長谷川慶子 (6. 1)
人に伴う経費	13, 450		鮎川勝 (11. 20)	長谷川慶子退職 (10. 9)
人 件 費	13, 209		金田栄祐転出 (8. 31)	古田逸子 (11. 14)
庁 費	241			能登智子 (43. 2. 1)
南極資料整備	3, 619			
一 般 研 究	5, 068			
昭 和 43 年 度	24, 705	14		古田逸子退職 (43. 12. 28)
人に伴う経費	15, 822			
人 件 費	15, 595			
庁 費	227			
南極資料整備	3, 511			
一 般 研 究	5, 372			
昭 和 44 年 度	26, 050	14	喜納淳転出 (4. 30)	
人に伴う経費	16, 767			
人 件 費	16, 540			
庁 費	227			
南極資料整備	3, 511			
一 般 研 究	5, 772			
昭 和 45 年 度	84, 530	46 (内29名 特殊職員)	引地章 (4. 17) 田村和明 (4. 17)	曾山裕子 (44. 4. 1)
人に伴う経費	58, 590		鈴木由喜男 (5. 20) 竹内貞男 (6. 1)	今泉晶子 (45. 5. 7)
人 件 費	57, 777		大貫来 (併) (46. 1. 16)	中島多い (45. 10. 9)
庁 費	813		稲垣勝之転出 (7. 31)	市川福次郎退職 (45. 8. 5)
センター運営	19, 658			能登智子退職 (45. 12. 31)
一 般 研 究	6, 283			曾山祐子退職 (46. 3. 31)
昭 和 46 年 度	94, 897	47 (内29名 特殊職員)	佐藤安宏 (5. 1) 吉田治郎 (8. 16)	曾根久美子 (46. 4. 1)
人に伴う経費	65, 460			小椋臣令 (46. 4. 7)
人 件 費	64, 566			石原恵美子 (46. 4. 12)
庁 費	894			河内恵子 (46. 4. 19)
センター運営	22, 145			石原恵美子退職 (46. 8. 31)
一 般 研 究	7, 292			河内恵子退職 (46. 10. 19)
				小椋臣令退職 (47. 3. 31)

各年度とも当初予算額である。

表 2 職 員 配 置 表

昭和47年 3 月 31 日現在

所 長 村 山 雅 美
企 画 官 村 山 雅 美 兼 務

極地事業部長	松田達郎
主任研究官	村越望
企画業務係	竹内貞男, 柴野浩成, 曾根久美子
設営調査研究係	佐野雅史, 吉田治郎
極地研究・資料部長	楠宏
主任研究官	川口貞男
主任研究官	星合孝男
研究員	鮎川勝
資料室	松里房子, 長谷川慶子
事務長	引地章
総務係	田村和明, 鈴木由喜男, (併)大貫来 今泉晶子, 中島多恵

資料 1 文部省設置法施行規則

昭和28年1月31日

文部省令第二号

改正 昭和45年4月17日

改正 昭和46年3月31日

第三節 国立科学博物館

(館長)

第40条 国立科学博物館に館長を置く。

2 館長は、館務を掌理する。

(内部組織)

第41条 国立科学博物館に、次の6部を置く。

- 一 庶務部
- 二 事業部
- 三 動物研究部
- 四 植物研究部
- 五 地学研究部
- 六 理工学研究部

2 前項に掲げるもののほか、国立科学博物館に極地研究センターを置く。

第42条から第44条の6まで省略

(極地研究センター)

第44条の7 極地研究センターにおいては、極地に関する科学について調査研究を行ない、並びにこれに関する資料を収集し、保管し、及び利用に供するとともに、南極地域観測について、事業計画案の作成、南極地域観測隊の編成の準備その他の協力を行なう。

(極地研究センターの組織)

第44条の8 極地研究センターに所長を置く。

2 所長は、所務を掌理する。

第44条の9 極地研究センターに事務室及び次の2部を置く。

- 一 極地事業部
- 二 極地研究・資料部

(極地研究センターの事務室)

第44条の10 事務室においては、極地研究センターの庶務、会計等に関する事務を処理する。

(極地研究センターの極地事業部)

第44条の11 極地事業部においては、次の事務をつかさどる。

- 一 南極地域観測に関する事業計画案を作成すること。
- 二 南極地域観測隊の編成の準備、その他南極地域観測について、文部大臣が別に定める範囲の協力を行なうこと。
- 三 極地における人間の生活及び行動に必要な施設、設備等の設営に関する調査研究を行なうこと。

(極地研究センターの極地研究資料部)

第44条の12 極地研究・資料部においては、次の事務をつかさどる。

- 一 極地に関する地球物理学、及び地学について調査研究を行なうこと。
- 二 極地に関する生物学について、調査研

究を行なうこと。

- 三 極地に関する資料を収集し、保管し、展示し、及び解説し、ならびにこれに関する情報及び参考資料を紹介し、及び提供すること。

(極地研究センターの各部の共通事務)

第44条の13 極地事業部及び極地研究・資料部においては、前二条に定める事務のほか、各部の所掌事務に関し、次の事務をつかさどる。

- 一 国及び地方公共団体の機関、大学、民間団体等の求めに応じ、協力し及び指導すること。
- 二 内外の諸機関と連絡協力すること。
- 三 研究成果の刊行及び研究会等の開催、その他研究の促進に関すること。

(極地研究センターの企画官)

第44条の14 極地研究センターに企画官一人を置く。

- 2 企画官は、上司の命を受け、南極地域観測についての協力その他の事業に係る重要事項についての企画及び調査に参画する。

(極地研究センターの企画委員)

第44条の15 極地研究センターに企画委員30人以内を置く。

- 2 企画委員は、極地研究センターが南極地域観測について行なう協力に関する重要事項について所長に助言する。
- 3 企画委員は非常勤とする。

資料 2 国立科学博物館極地研究センター
企画委員規定

昭和45年9月14日
文部大臣裁定

(企画委員の任命)

第 1 企画委員は、南極地域観測に関し学識経験を有する者および、関係行政機関の職員のうちから、文部大臣が任命する。

(企画委員の任期)

第 2 企画委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の企画委員の任期は、前任者の残

任期間とする。

(企画委員の職務の遂行)

第 3 企画委員は、文部省設置法施行規則(昭和28年文部省令第2号)第44条の15第2項の職務を行なうに当っては、会議を開いて協議を行なうものとする。

2 前項の会議の運営に関し必要な事項は、極地研究センター所長の意見を聞いて国立科学博物館長が定める。

付 則

この規程は、昭和45年9月14日から実施する。

資料 3 国立科学博物館極地研究センター
企画委員の会議に関する運営規程
昭和45年12月1日館長裁定
(議長および副議長)

第 1 条 国立科学博物館極地研究センター企画委員規定(昭和45年9月14日文部大臣裁定)第3第1項に規定する企画委員の会議(以下「会議」という。)に議長および副議長1人を置き、それぞれ企画委員が互選する。

第 2 条 議長は、会議の会務を総理する。

2 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときはその職務を代理し、議長が欠けたときはその職務を行なう。

(幹 事)

第 3 条 会議の議事を準備し、整理させるため必要があるときは、会議に幹事を置く。

2 幹事は、企画委員の中から議長が指名する。

(部 会)

第 4 条 会議は、専門の事項を調査するため必要があるときは、部会を置くことができる。

2 部会の委員としては、企画委員のほか、国立科学博物館南極地域観測専門委員規定第1条に規定する専門委員および臨時専門委員を加えることができる。

3 部会長および部会の委員は議長が指名す

る。

(会議)

第5条 会議は、極地研究センター所長(以下「所長」という。)の求めに応じ、議長がこれを招集する。

(議事)

第6条 会議は、企画委員の過半数の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 会議の議事は、出席した企画委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決するところによる。

3 前条および本条前2項の規程は、部会に準用する。この場合において前条および本条前2項中「会議」とあるのは「部会」と、「議長」とあるのは「部会長」と、「企画委員」とあるのは「部会の委員」とそれぞれ読み替えるものとする。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、極地研究センターにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に会議が定める。

附則

この規則は、昭和45年12月1日から実施する。

資料 3.1. 国立科学博物館極地研究センター企画委員名簿

(昭和47年3月31日現在)

50音順

氏名	所属
朝比奈英三	北海道大学低温科学研究所教授
朝比奈一男	東邦大学教授
栗野 誠一	日本大学理工学部教授
井上 英二	国土地理院測地部長
石田 完	北海道大学低温科学研究所教授
犬飼 哲夫	北海道大学名誉教授

氏名	所属
岡野 澄	日本学術振興会常務理事
加藤陸奥雄	東北大学長
糟谷 績	電波研究所電波部長
川上喜代四	海上保安庁水路部長
河原 猛夫	日本短波放送株式会社技術顧問
木崎甲子郎	北海道大学理学部助教授
白木 博次	東京大学医学部附属脳研究施設教授
瀬川 貞雄	日本航空株式会社航務本部副本部長
清野善兵衛	気象庁観測部南極観測事務室長
玉木 章夫	東京大学宇宙航空研究所教授
坪川 家恒	東京大学地震研究所教授
鳥居 鉄也	日本極地研究振興会常務理事
奈須 紀幸	東京大学海洋研究所教授
永田 武	東京大学理学部教授
西堀栄三郎	
原田 美道	国土地理院長
平尾 収	東京大学生産技術研究所教授
二見 秀雄	東京理科大学工学部教授
古畑 正秋	東京大学東京天文台長
前田 憲一	京都大学工学部教授
宮地 政司	
山本 義一	東北大学理学部教授

旧委員

和達 清夫 45.12.21~46.4.5

資料 4 南極地域観測専門委員規程

昭和45年12月1日館長裁定

(設置)

第1条 国立科学博物館極地研究センター

(以下「極地研究センター」という。)に、南極地域観測事業の実施に関する専門的事項について協力するため、南極地域観測専門委員(以下「委員」という。)を置く。

2 臨時の必要があるときは、臨時専門委員(以下「臨時委員」という。)を置くことができる。

3 委員および臨時委員は80人以内とする。(委員の委嘱等)

第2条 委員および臨時委員は南極地域観測に関し、学識経験を有する者および関係行政機関の職員のうちから、国立科学博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

2 委員および臨時委員のつかさどる専門的事項については、極地研究センター所長（以下「所長」という。）の意見を聞いて館長が指定する。

3 委員および臨時委員は非常勤とする。（委員等の任期）

第3条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 臨時委員は、特別の事項について処理を終ったとき退任するものとする。（委員等の職務の遂行）

第4条 委員および臨時委員の職務の執行に関し必要な事項は、所長が館長の承認をえて別に定める。

（庶務）

第5条 委員および臨時委員に関する庶務は、極地研究センターの極地事業部において処理する。

附則

この規程は、昭和45年12月1日から実施する。

資料 4.1. 南極地域観測専門委員名簿

（昭和47年3月31日現在）

50音順

氏名	所属
青山 巖	東海大学工学部教授
荒金 兼三	小松製作所営業本部直轄部付
一国 雅巳	東北大学教養部教授
岩瀬 重信	株式会社「二幸」新宿店次長
大磯 敏雄	国立栄養研究所長
小口 高	東京大学理学部附属地球物理研究施設教授
大久保嘉明	東京医科歯科大学医学部附属病院講師

氏名	所属
大瀬 正美	郵政省電波研究所電波予報研究室研究官
小坂 文子	東京工業大学工学部助教授
柿沼 清一	国土地理院測地部測地第二課三係係長
景山 孝正	国立相模原病院整形外科医長
金田 栄祐	東京大学理学部附属地球物理研究施設助手
鎌田 哲夫	名古屋大学空電研究所助教授
神沼 克伊	東京大学地震研究所霧島火山観測所助手
上吉原敏夫	郵政省電波監理局技術調査課工事係長
刈谷 正意	日本飛行連盟
川崎 巖	日本ドライケミカル株式会社営業三部二課長
木崎甲子郎	北海道大学理学部助教授
木村 盤根	京都大学工学部助教授
国分 征	東京大学理学部附属地球物理研究施設助教授
小玉 正弘	理化学研究所宇宙線研究室副主任研究員
後藤 茂久	海上保安庁警備救難部航空管理官
小林 昭男	井ノ頭整形外科病院
佐藤 和郎	トヨタ自動車工業株式会社
佐藤 稔夫	日本大学理工学部教授
清水 正義	気象庁観測部高層課調査官
新野 賢爾	郵政省電波研究所電波予報研究室長
鈴木 義男	北海道大学低温科学研究所助教授
清野善兵衛	気象庁観測部南極観測事務室長
竹屋 芳夫	大阪市立大学工学部教授
田島 稔	国土地理院地殻活動調査室長
土屋 貴俊	富士高圧株式会社社長
等松 隆夫	東京大学理学部附属地球物理研究施設助教授
鳥居 鉄也	日本極地研究振興会常務理事
中村 秀勝	日本電信電話公社九州電気通信局職員部調査員
西部 暢一	日本電信電話公社東京電線返信部庶務係長
花岡和一郎	東京逓信病院循環器科部長
平沢 威男	東京大学理学部附属地球物理研究施設助手

氏名	所属
平山 善吉	日本大学短期大学部講師
蛭間 茂	運輸省航空局技術部専門官
福島 博	横浜市立大学文理学部教授
藤原 健蔵	広島大学教養部助教授
細谷 昌之	防衛庁技術研究本部開発研究官付
松岡 数男	日本フライングサービス株式会社松本訓練所長
宮崎 茂	郵政省電波研究所電離層衛星研究室主任研究官
三島 次郎	東京教育大学理学部講師
宮本 忠雄	東京医科歯科大学医学部助教授
武藤 晃	神奈川県障害者福祉センター
村内 明	日本大学理工学部助教授
室住 正世	室蘭工業大学工学部教授
守田康太郎	気象庁海洋気象部海務課長
吉田 新生	国土地理院測図部検査課長
吉田 栄夫	広島大学文学部助教授
芳野 赳夫	電気通信大学電気通信学部助教授
渡辺 隆三	海上保安庁水路部海象課専門官
綿拔 邦彦	東京大学教養学部助教授

旧委員

木原 繁	45. 12. 21~46. 9. 30
後藤 周一	〃
寺本 一男	〃
藤原 千尋	45. 12. 21~46. 7. 31

2. 極地研究センター所員の活動状況

村山雅美：第7次日本南極地域観測隊長（夏隊）（40. 11. 20~41. 4. 8）
 第9次日本南極地域観測隊長（兼越冬隊長）（42. 11. 30~44. 3. 26）
 第6回南極条約協議会議日本政府代表代理（45. 10. 16~11. 6）
 南極地域米国基地視察，ドライバー深層掘削計画打合（46. 12. 1~12. 21）
 松田達郎：南極基地視察（ミールヌィ，昭和基地）（39. 12. 28~40. 2. 6）

第7次日本南極地域観測隊（越冬隊）
 （40. 11. 20~42. 3. 20）

南極地域米国基地視察（マクマード他）
 （43. 11. 5~11. 25）

第11次日本南極地域観測隊長（兼越冬隊長）（44. 11. 25~46. 4. 10）

楠 宏：第8次日本南極地域観測隊副隊長（夏隊）（41. 9. 1~42. 4. 30）

SCAR 設営分科会出席（英国，ケンブリッジ）（42. 7. 22~8. 5）

南極地域米国基地視察（マクマード他）
 （43. 2. 5~2. 7）

SCAR 雪氷学シンポジウム（米国，ハノーバー）（43. 9. 1~9. 10）

第10次日本南極地域観測隊長（兼越冬隊長）（43. 9. 1~45. 4. 15）

第6回南極条約協議会議日本政府代表代理（45. 10. 16~11. 6）

第7回南極条約協議会議第1回準備会議（ウェリントン）（47. 3. 4~3. 9）

村越 望：第9次日本南極地域観測隊（夏隊）（42. 11. 30~43. 4. 12）

第10次日本南極地域観測隊副隊長（夏隊）
 （43. 11. 30~44. 4. 25）

南極地域米国基地視察（マクマード他）
 （44. 11. 6~44. 11. 23）

第12次日本南極地域観測隊副隊長（夏隊）
 （45. 11. 25~46. 5. 4）

川口貞男：第8次日本南極地域観測隊（越冬隊）（41. 12. 1~43. 3. 13）

第11次日本南極地域観測隊副隊長（夏隊）
 （44. 11. 25~45. 5. 9）

南極地域米国基地視察，南極気象研究（マクマード）（45. 11. 14~12. 27）

第13次日本南極地域観測隊副隊長（兼越冬隊長）（46. 11. 25~）

星合孝男：第7次日本南極地域観測隊（夏隊）（40. 11. 20~41. 4. 8）

第8次日本南極地域観測隊（越冬隊）
 （41. 12. 1~43. 3. 13）

第11次日本南極地域観測隊（越冬隊）
 （44. 11. 25~46. 4. 10）

南極地域ドライバー探層掘削計画打合，ice flora の研究（マクマード他）（46. 12. 1~47. 1. 6）

佐野雅史：第10次日本南極地域観測隊（夏隊）（43. 11. 30～44. 4. 25）
 第13次日本南極地域観測隊（越冬隊）（46. 11. 25～）
 鮎川 勝：第11次日本南極地域観測隊（越冬隊）（44. 11. 25～46. 4. 10）
 柴野浩成：第12次日本南極地域観測隊（越冬隊）（45. 11. 25～47. 4. 22）

3. 極地研究センター及び南極観測関連の会議経過について

	極地研究センター関係会議	南極観測関連会議
1970		
4. 17	国立科学博物館極地研究センター発足	
25		雪上車設計委員会（南極本部）*
5. 6		南極条約会議国内連絡会（外務省）**
8		南極特別委員会（学術会議）***
9		ふじ事故調査委員会*
12	南極観測計画専門委員会	
21		ふじ推進機改善委員会*
29		ロケット専門部会*
6. 4	健康判定部会	
8		ふじ推進機改善委員会*
9	地学関係計画専門委員会	条約会議国内連絡会**
10		南極特別委員会***
22		南極本部総会*
24～25		第6回南極条約協議会拡大準備会議**
7. 3		航空部会（仮称）*
7		五者連絡会議*
10		ふじ推進機改善委員会*
13		通信分科会***
15		雪上車設計委員会*
29		ロケット専門部会*

	極地研究センター関係会議	南極観測関連会議
20～23		12次隊夏期総合訓練*
24		ふじ推進機改善委員会*
8. 4	極地研究センター板橋へ移転	
10		ふじ推進機改善委員会*
11		南極特別委員会***
20	健康判定部会	
21		条約会議国内連絡会**
28		南極本部連絡会*
9. 8		通信分科会***
10		条約会議国内連絡会**
11		ふじ推進機改善委員会*
19		五者連絡会*
22		条約会議国内連絡会**
10. 2		五者連絡会*
5		南極特別委員会***
9		条約会議国内連絡会**
17		五者連絡会*
19～30		第6回南極条約協議会議**
11. 15	ロケット計画専門委員会	条約会議国内連絡会**
11		南極本部総会*
16		南極特別委員会***
17		通信分科会***
18		ロケット専門部会*
12. 18		雪上車設計委員会*
19		
1971	〔地球展（本館主催）開始〕	
1. 12		ふじ推進機改善委員会*
14		南極本部連絡会*
16		南極特別委員会***
27		ロケット専門部会*
2. 9		南極特別委員会***
15	企画委員会議	
26		南極本部連絡会*
3. 1		ロケット専門部会*

	極地研究センター関係会議	南極観測関連会議		極地研究センター関係会議	南極観測関連会議
3. 1		南極特別委員会***	28		氷海航行マニュアル作成打合*
9	[第9次南極地域観測越冬隊内陸調査旅行隊秩父宮賞受賞]		30		条約会議連絡会**
4. 9		ロケット専門部会*	10. 1		ロケット専門部会*
13	ドライバー調査報告会		6	航空分科会	
15	機械部門報告会		11	企画委総合部会	
19	健康判定分科会		25	第13次夏期オペレーション打合	
21	通信分科会		26		五者連絡会*
22		雪上車設計委員会*	30		第13次積荷打合せ*
23	バルーン分科会	南極特別委員会***	11. 1		ふじ推進機改善委員会*
28	専門委員会 ロケット設計会議 第13次隊夏期フィールド調査打合		2		南極通信担当者会議*
30		ふじ推進機改善委員会*	11		南極条約会議打合**
5. 6	内陸調査部門打合せ		19	超高層専門委連絡会	南極本部総会*
7	ドライバー分科会		12. 8		定常観測担当機関打合*
13	建築部門打合		16	健康判定分科会	
17		定常観測担当機関打合*	21	宙空専門委連絡会	
18		通信部会準備会*	1972		
25	企画委総合部会	南極特別委員会総会***	1.26	超高層専門委連絡会	
31		ふじ推進機改善委員会*	28		条約会議関係者連絡会**
6. 7	企画委総会		31		南極本部連絡会*
10	健康判定分科会		2. 1	航空機利用のための観測部門専門委連絡会	
21	航空分科会	雪上車設計委員会*	4	超高層専門委連絡会	
22		南極本部総会*	12	ロケットバルーン分科会	
30		五者連絡会*	22	企画委設営部会	
7. 15	企画委総合部会		24	企画委地学部会	
19		南極本部連絡会*	〃	宙空部会	
8. 19		五者連絡会*	〃	生物・医学部会	
30		南極本部連絡会*	25		南極特別委員会(主幹)***
9. 25	地名委員会準備会		26	企画委総合部会	
27		通信専門部会*	29	超高層専門委連絡会(ロケット設計会議)	

	極地研究センター関係会議	南極観測関連会議
3. 1	宙空専門委連絡会	南極本部連絡会*
2	地学、生物医学合同部会	
	雪上車関係委員連絡会	
13	企画委設営部会	
17	企画委総合部会	
	〃 総会	
24		南極本部連絡会*
27	ロケット専門委連絡会（設計会議）	

* 文部省大学学術局国際学術課，南極本部

** 外務省国連局科学課

*** 日本学術会議

4. 日本南極地域観測隊の概況 (1970年1月1日～1972年3月31日)

1970年

この年に関係した隊は第10, 11, 12次隊である。隊の行動日程と隊員名簿および「ふじ」幹部氏名をつぎにしめす。

第10次越冬隊：1968年11月30日東京発，夏隊は1969年4月25日東京着，1969年2月20日より1970年2月19日まで昭和基地で観測，1970年4月28日東京着。

第11次隊：1969年11月25日東京発，夏隊は1970年5月9日東京着。越冬隊は1970年2月20日より1971年2月19日まで昭和基地で観測，1971年4月10日東京着。

第12次隊：1970年11月25日東京発。

表 1 第10次南極地域観測隊 (1968-1970)
越 冬 隊 (28名)

担 当	氏 名 (ローマ字)	所 属
隊 長	楠 宏 (KUSUNOKI Kou)	国 立 科 学 博 物 館
気 象	石田 恭市 (ISHIDA Kyoichi)	気 象 庁
〃	鈴木 剛彦 (SUZUKI Takehiko)	〃
〃	酒井 重典 (SAKAI Shigenori)	〃
電 離 層	太田 安貞 (OTA Yasusada)	電 波 研 究 所
地 球 物 理	増田 実 (MASUDA Minoru)	国 土 地 理 院
超 高 層 物 理	鈴木 裕 (SUZUKI Yutaka)	文 部 省 (大阪市立大学)
〃	小倉 紘一 (OGURA Koichi)	〃 (日本大学)
〃	林 幹治 (HAYASHI Kanji)	〃 (東京大学)
〃	徳田 進 (TOKUDA Susumu)	名 古 屋 大 学
気 象	近藤 五郎 (KONDO Goro)	気 象 庁
地 学 (内陸調査)	安藤 久男 (ANDO Hisao)	北 海 道 開 発 局
〃	吉田 勝 (YOSHIDA Masaru)	文 部 省 (北海道大学)
〃	小元久仁夫 (OMOTO Kunio)	東 北 大 学
〃	成瀬 廉二 (NARUSE Renji)	北 海 道 大 学
〃	上田 豊 (AGETA Yutaka)	文 部 省 (名古屋大学)
医 学	蜂須賀弘久 (HACHISUKA Hirohisa)	京 都 教 育 大 学
医 療	吉川 暢一 (KIKKAWA Masamoto)	鳥 取 大 学
機 械	石渡 真平 (ISHIWATA Shinpei)	文 部 省 (小松製作所)
〃	井上 正夫 (INOUE Masao)	〃 (いすゞ自動車)

担 当	氏 名 (ローマ字)	所 属
〃	竹内 貞男 (TAKEUCHI Sadao)	東 京 大 学
〃	前田 祐司 (MAEDA Yuji)	機 械 試 験 所
通 信	沖吉 浩 (OKIYOSHI Hiroshi)	文 部 省 (電 々 公 社)
〃	浅野 英明 (ASANO Hideaki)	〃
調 理	渡部 慎怡致 (WATANABE Shoichi)	〃 (東 条 会 館)
〃	村上 捷征 (MURAKAMI Katsuyuki)	〃
設 営	八木 実 (YAGI Minoru)	文 部 省 (日 産 デ ィ ー ゼ ル)
〃	関 孝治 (SEKI Koji)	文 部 省 (関 組)
夏 隊 (12名)		
副 隊 長	村越 望 (MURAKOSHI Nozomi)	国 立 科 学 博 物 館
海 洋 物 理	猿渡 了己 (SARUWATARI Ryoki)	海 上 保 安 庁 水 路 部
〃 化 学	日向野 良治 (HIGANO Ryoji)	〃
〃 生 物	高橋 永治 (TAKAHASHI Eiji)	神 戸 大 学
生 物	三島 次郎 (MISHIMA Jiro)	東 京 教 育 大 学
航 空 測 量	橋爪 昭次 (HASHIZUME Shoji)	国 土 地 理 院
ロ ケ ッ ト	山脇 菊夫 (YAMAWAKI Kikuo)	東 京 大 学
航 空	後藤 周一 (GOTO Shuichi)	文 部 省 (日 本 飛 行 連 盟)
〃	中山 忠満 (NAKAYAMA Tadamitsu)	〃
建 設	梧原 幸八郎 (KIRIHARA Kohachiro)	建 設 省
設 営	佐野 雅史 (SANO Masashi)	国 立 科 学 博 物 館
〃	町田 実 (MACHIDA Minoru)	文 部 省 (拓 殖 大 学)

同 行 者

横 川 和 夫 (YOKOKAWA Kazuo) 共 同 通 信 社 (夏 隊)

木 村 征 男 (KIMURA Yukio) 日 本 放 送 協 会 (越 冬 隊)

Gerard A. ROACH, Denver Research Institute, University of Denver, Denver, Colorado,
U. S. A. (夏 隊)

表 2 第 11 次 南 極 地 域 観 測 隊 (1969-1971)

越 冬 隊 (30名)

担 当	氏 名 (ローマ字)	所 属
隊 長	松田 達郎 (MATSUDA Tatsuro)	国 立 科 学 博 物 館
気 象	大野 勇太 (ONO Isada)	気 象 庁
〃	里見 穂 (SATOMI Minoru)	〃
〃	上橋 宏 (JOBASHI Hiroshi)	〃
電 離 層	城 功 (SHIRO Isao)	電 波 研 究 所
地 球 物 理	千葉 平八郎 (CHIBA Heihachiro)	東 京 大 学
超 高 層 物 理	楠瀬 昌彦 (KUSUNOSE Masahiko)	高 知 大 学
〃	坂元 敏朗 (SAKAMOTO Toshirou)	電 波 研 究 所
〃	福西 浩 (FUKUNISHI Hiroshi)	文 部 省 (東 京 大 学)
雪 氷	清水 弘 (SHIMIZU Hiromu)	北 海 道 大 学

担 当	氏 名 (ローマ字)	所 属
〃	吉村愛一郎 (YOSHIMURA Aiichiro)	国 土 地 理 院
〃	渡辺 興亜 (WATANABE Okitsugu)	名 古 屋 大 学
気 象	真木 太一 (MAKI Taichi)	農 業 技 術 研 究 所
医 学	小田 哲夫 (ODA Tetsuo)	国 立 長 野 療 養 所
生 物	星合 孝男 (HOSHIAI Takao)	国 立 科 学 博 物 館
医 療	福嶋 泰夫 (FUKUSHIMA Yasuo)	鳥 取 大 学
機 械	岡本 義久 (OKAMOTO Yoshihisa)	文 部 省 (三菱重工)
〃	金子 信吾 (KANEKO Shingo)	〃 (いすゞ自動車)
〃	大平 寿一 (OHIRA Toshikazu)	〃 (小松製作所)
〃	柿埜 輝夫 (KAKINO Teruo)	関 東 地 方 建 設 局
通 信	森本 正市 (MORIMOTO Masaichi)	文 部 省 (電々公社)
〃	福島 勲 (FUKUSHIMA Isao)	〃
ロ ケ ッ ト	芦田 成生 (ASHIDA Shigeo)	文 部 省 (明星電気)
〃	鮎川 勝 (AYUKAWA Masaru)	国 立 科 学 博 物 館
〃	白壁 弘保 (SHIRAKABE Hiroyasu)	文 部 省 (松村組)
調 理	石田 晶啓 (ISHIDA Masahiro)	〃 (二 幸)
〃	坂本 好吉 (SAKAMOTO Kokichi)	〃 (千 両)
設 営	石本 恵生 (ISHIMOTO Yasuo)	〃 (北海道大学)
〃	伊藤 一 (ITO Hajime)	〃 (京都大学)
〃	鎌田 寛美 (KAMADA Hiromi)	国 立 大 雪 青 年 の 家
夏 隊 (10名)		
副 隊 長	川口 貞男 (KAWAGUCHI Sadao)	国 立 科 学 博 物 館
海 洋 物 理	猿渡 了己 (SARUWATARI Ryoki)	海 上 保 安 庁
〃 化 学	背戸 義郎 (SETO Yoshio)	〃
〃 生 物	佐野 昭 (SANO Akira)	気 象 庁
航 空 測 量	日高 照明 (HIDAKA Teruaki)	国 土 地 理 院
ロ ケ ッ ト	平沢 威男 (HIRASAWA Takeo)	東 京 大 学
航 空	伊東 弘二 (ITO Hiroji)	文 部 省 (日 産 自 動 車)
〃	松岡 数男 (MATSUOKA Kazuo)	〃 (日本フライングサービス)
設 営	家形 至亮 (YAKATA Yoshiaki)	〃 ()
〃	高野 共平 (TAKANO Tomohei)	〃 (京 都 大 学)

夏 隊 同 行 者

Herman R. FRIS, Director, Center for Polar Archives, National Archives, Washington, D. C.,
U. S. A.

Garth A. MORGAN, Weapons Research Establishment, Department of Supply, Salisbury, S. Australia.

表 3 第12次南極地域観測隊 (1970-1972)

越 冬 隊 (29名)

担 当	氏 名 (ローマ字)	所 属
隊 長 (越冬隊長)	小口 高 (OGUTI Takasi)	東 京 大 学

担 当	氏 名 (ローマ字)	所 属
副 隊 長	大瀬 正美 (OSE Masami)	電 波 研 究 所
気 象	中西 秀二 (NAKANISHI Hideji)	気 象 庁
〃	福井 徹郎 (FUKUI Tetsuro)	〃
〃	村松 照男 (MURAMATSU Teruo)	〃
電 離 層	緒方 隆信 (OGATA Takanobu)	電 波 研 究 所
地 球 物 理	小林 弘司 (KOBAYASHI Hiroshi)	国 土 地 理 院
超 高 層 物 理	松村 政美 (MATSUMURA Masami)	極地研究センター (大阪市立大学)
〃	伊藤 正則 (ITOH Masanori)	極地研究センター (京 都 大 学)
気 象	安達 隆史 (ADACHI Takashi)	東 北 大 学
医 学	菅原 和夫 (SUGAWARA Kazuo)	長 崎 大 学
生 物	綿貫 知彦 (WATANUKI Tomohiko)	極地研究センター (神奈川県立青少年センター)
雪 氷	山田 知充 (YAMADA Tomomi)	北 海 道 大 学
〃	中尾 正義 (NAKAWO Masayoshi)	〃
機 械	多賀 正昭 (TAGA Masaaki)	極地研究センター (日 立 製 作 所)
〃	山崎 克亮 (YAMAZAKI Katsuryo)	極地研究センター (いすゞ自動車)
〃	信田 義一 (NOBUTA Yoshiichi)	極地研究センター (小 松 製 作 所)
〃	島崎 芳征 (SHIMAZAKI Yoshiyuki)	機 械 試 験 所
通 信	川畑 定生 (KAWABATA Sadao)	極地研究センター (日本電信電話公社)
〃	川路 静雄 (KAWAJI Shizuo)	〃
調 理	飯野 耕作 (IINO Kousaku)	極地研究センター (紀文赤坂支店)
〃	清水 護雄 (SHIMIZU Morio)	〃 (第7商事赤坂セブン)
医 療	安田 弘 (YASUDA Hiroshi)	徳 島 大 学
ロ ケ ッ ト	竹内 徳男 (TAKEUCHI Norio)	極地研究センター (日 産 自 動 車)
〃	古田 敬博 (FURUTA Takahiro)	〃 (明 星 電 気)
〃	見城 正幸 (KENJO Masayuki)	〃 (国 際 電 信 電 話)
設 営	木村 恒美 (KIMURA Tsuneyosi)	〃 (日本特殊土木工業)
〃	大室 昌久 (OHMURO Akihisa)	建 設 省
設 営	柴野 浩成 (SHIBANO Hiroshige)	極 地 研 究 セ ン タ ー

(地球化学担当三島昌夫 (国立公衆衛生院) は発病のため越冬が不可能となり本国へ送還された)

夏 隊 (10名)

副 隊 長	村越 望 (MURAKOSHI Nozomi)	極 地 研 究 セ ン タ ー
海 洋 物 理	中林 修二 (NAKABAYASHI Suji)	海 上 保 安 庁 水 路 部
〃 化 学	背戸 義郎 (SETO Yoshio)	〃
〃 生 物	西脇 三郎 (NISHIWAKI Saburo)	東 京 教 育 大 学
地 球 物 理	高橋 秀臣 (TAKAHASHI Hidenao)	国 土 地 理 院
ロ ケ ッ ト	寺井 啓 (TERAI Kei)	北 海 道 大 学
〃	片桐 一男 (KATAGIRI Kazuo)	極地研究センター (向 井 組)
航 空	松岡 数男 (MATSUOKA Kazuo)	極地研究センター (日本飛行連盟)
〃	栗崎 隆信 (KURISAKI Takanobu)	〃
設 営	小杉 裕司 (KOSUGI Yuji)	文 部 省

表4 「ふじ」幹部名簿

第7次 (1965-67)	艦長	本多敏治	第10次 (1968-69)	艦長	松島茂雄
	副長	松浦光利		副長	磯辺秀雄
	飛行長	赤塚一男		飛行長	武藤寅夫
	機関長	戸塚英夫		機関長	上原吉夫
第8次 (1966-67)	艦長	松浦光利	第11次 (1969-70)	艦長	磯辺秀雄
	副長兼飛行長	赤塚一男		副長	前田冬樹
	機関長	阿部達		飛行長	石沢治夫
第9次 (1967-68)	艦長	本多敏治		機関長	上原吉夫
	副長	松島茂雄	第12次 (1970-71)	艦長	大森正人
	飛行長	武藤寅夫		副長	椎原国康
	機関長	阿部達		飛行長	吉井貞男
				機関長	衣笠健

1971年

第11次越冬隊：1969年11月25日東京発、
1971年2月20日に第12次隊と交代、4月10日
東京着。

第12次隊：1970年11月25日東京発、夏隊は
1971年5月16日東京着、越冬隊は2月20日よ
り昭和基地での観測に従事。

第13次隊：1971年11月25日東京発。

表5 第13次南極地域観測隊員名簿 (1971-1973)

夏 隊 (10名)

担 当	氏 名 (ローマ字)	所 属
隊 長	清野善兵衛 (SEINO Zenbei)	気 象 庁
海 洋 物 理	板東 保 (BANDO Tamotsu)	海 上 保 安 庁 水 路 部
〃 化 学	岩永 義幸 (IWANAGA Yoshiyuki)	〃
〃 生 物	松崎 正夫 (MATSUZAKI Masao)	気 象 庁
地 球 物 理	木村 幸吉 (KIMURA Kokiti)	国 土 地 理 院
地 理 地 形	森脇 喜一 (MORIWAKI Kiichi)	広 島 大 学
生 物	青柳 昌宏 (AOYANAGI Masahiro)	東 京 教 育 大 学
ロ ケ ッ ト	片桐 一男 (KATAGIRI Kazuo)	極地研究センター (向井組)
設 営	内藤 正昭 (NAITO Masaaki)	極地研究センター (日本大学)
〃	佐藤 金雄 (SATO Kaneo)	国 立 磐 梯 青 年 の 家

越 冬 隊 (30名)

副 隊 長 (越冬隊長)	川口 貞男 (KAWAGUCHI Sadao)	極 地 研 究 セ ン タ ー
越冬副隊長 (超高層物理)	国分 征 (KOKUBUN Susumu)	東 京 大 学
気 象	藤沢 格 (FUZISAWA Itaru)	気 象 庁

担 当	氏 名 (ローマ字)	所 属
気 象	福谷 博 (FUKUTANI Hiroshi)	気 象 庁
〃	白土 武久 (SHIRATSUCHI Takehisa)	〃
電 離 層	磯崎 進 (ISOZAKI Susumu)	電 波 研 究 所
地 球 物 理	瀬戸 憲彦 (SETO Norihiko)	東 京 大 学
超 高 層 物 理	田中 良和 (TANAKA Yoshikazu)	京 都 大 学
〃	宮崎 茂 (MIYAZAKI Shigeru)	電 波 研 究 所
気 象	佐々木 浩 (SASAKI Hiroshi)	極地研究センター(北海道大学)
雪 氷	成田 英器 (NARITA Hideki)	北 海 道 大 学
地 球 化 学	村山 治太 (MURAYAMA Haruta)	横 浜 国 立 大 学
医 学	三和 敏夫 (MIWA Toshio)	岐 阜 大 学
地 質	石川 輝海 (ISHIKAWA Terumi)	名 古 屋 大 学
機 械	井上 正夫 (INOUE Masao)	極地研究センター(いすゞ自動車)
〃	増川 浅夫 (MASUKAWA Asao)	〃 (小松製作所)
〃	梅田 一徳 (UMEDA Kazunori)	機 械 技 術 研 究 所
〃	杉原 功一 (SUGIHARA Kouiti)	電 子 技 術 総 合 研 究 所
通 信	森口 浩 (MORIGUCHI Hiroshi)	極地研究センター(日本電信電話公社)
〃	木村 康弘 (KIMURA Yasuhiro)	〃
調 理	五味 貞介 (GOMI Sadasuke)	極地研究センター(宮 鍵 (割烹))
〃	福島 正治 (FUKUSHIMA Seizi)	〃 (寿々木 食堂)
医 療	玉木 芳郎 (TAMAKI Yoshiro)	徳 島 大 学
ロ ケ ッ ト	山崎 茂雄 (YAMAZAKI Shigeo)	極地研究センター(明星電気)
〃	比留間徳久 (HIRUMA Norihisa)	〃 (日産自動車)
〃	上滝 実 (KOHTAKI Minoru)	〃 (電気通信大学)
〃	平山 昭英 (HIRAYAMA Akihide)	〃 (日本電気)
設 営 一 般	奥平 文雄 (OKUHIRA Fumio)	〃 (名古屋大学)
〃	佐野 雅史 (SANO Masashi)	極 地 研 究 セ ン タ ー
〃	林田 進 (HAYASIDA Susumu)	極地研究センター(荏原インフィルコ)

表 6 第13次「ふじ」幹部名簿

艦 長	前 田 冬 樹	飛 行 長	稲 沢 好 治
副 長	森 田 衛	機 関 長	衣 笠 健

1970年の主な活動

- 1月1日 第10次内陸調査隊やまと山脈A群に到着.
- 2日 第11次隊第1便(ヘリコプター)「ふじ」より昭和基地へ. 輸送・建設開始.
- 5日 「ふじ」0950* 見晴らし岩沖に接岸, パイプによる送油開始, 8日終了.

- 9日 重量物の基地への陸送完了, 小型機「ラサ」の試験飛行.
- 10日 「ラサ」やまと山脈の内陸旅行隊KC20の部品投下, 撮影飛行開始.
- 17日 ロケット発射台組立完了.
- 20日 「ふじ」よりの物資輸送終了.
- 21日 130キロリットル貯水槽完成.
- 23日 宇宙線観測用大型気球打上.
- 26日 内陸調査隊 S 100 (69°39'S, 43°

* 時間は現地時間を示す

- 20'E) 付近にモレーン群発見。
 27日 観測倉庫, 第11倉庫棟上げ, 微気象観測塔設置。
 29日 内陸調査隊基地帰投。
 30日 リュツォ・ホルム湾中の小島調査(69°25'S, 37°40'E. 50×100m)。
 31日 航空写真撮影終了。福島紳隊員慰霊祭。
 2月1日 第10, 11次隊基地の居住区交代。
 4日 野外調査(ラングホブデ, スカールン)開始, 10日まで。
 10日 ロケット S160-JA 1 打上げ。(1530)
 17日 S 160-JA 2 打上げ(1510)。
 19日 「ふじ」昭和基地離岸。
 20日 第11次越冬隊正式成立。
 25日 「ふじ」右舷スクルー切損(68°24'S, 38°51'E), 密流氷にピセット。
 26日 南極本部よりアメリカ, ソビエトへ「ふじ」の救援要請。
 27日 昭和基地の新設地震感震室での記録開始。
 3月7日 「オビ」(「ふじ」より13海里)へ楠第10次隊長, 磯辺艦長飛び, センコ隊長, クブリ船長と会談。氷状悪く「オビ」引返す。
 11日 川口第11次副隊長, 磯辺艦長昭和基地へ飛び南極本部と電話連絡。
 13日 米砕氷船「Edisto」ウエリントン発, 同時にウェッデル海で行動中の「Glacier」も「ふじ」に向う。
 18日 「ふじ」周辺の氷状好転, 2343外洋へ出る(68°05'S, 38°44'E)
 29日 「ふじ」ケーブタウン入港, 第10次越冬隊員, 外国人同行者下艦。
 4月4日 「ふじ」ケーブタウン出港。
 8日 第10次越冬隊東京着。
 5月9日 「ふじ」東京着
 12日 秋旅行隊(清水弘他10名) F 70往復。18日昭和基地着。
 6月22日 第39回南極本部総会開催, 第12次隊長小口高, 越冬隊副隊長大瀬正美, 夏隊副隊長村越望ほかの隊員決定。
 23日 冬旅行隊(清水弘他11名)出発, 7月21日内陸観測拠点を70°42'S, 44°18'Eに開設し8月7日帰着。
 8月14日 ラングホブデ調査開始, 9月16日まで。
 9月25日 春旅行隊(清水弘他8名)宗谷海岸調査10月2日終了。
 10月20日 オーロラ観測終了。
 11月3日 内陸旅行隊(清水弘他8名)出発, 1月22日 F16帰着。
 25日 第12次隊「ふじ」で東京出港。
 12月10日 「ふじ」フリーマントル入港, 16日出港。
- 1971年の主な活動**
 1月10日 「ふじ」右スクルー1翼切損(1858)。氷に閉ざる(67°16'S, 44°49'E)
 20日 「ラサ」昭和基地着(1538)
 24日 内陸旅行隊一部「ラサ」でF16より昭和基地へ収容。
 2月8日 旅行隊員3名「ラサ」で収容。
 10日 「ふじ」脱出。
 11日 「ふじ」より空輸開始, 第12次隊基地着。
 20日 第11・12次隊昭和基地管理交代。
 3月1月 「ラサ」撤収。
 4日 新検潮所の基準面標定, 補正観測。
 6日 ラングホブデ地区調査(12日終了)
 16日 第12次越冬隊員三島昌夫病気のため「ふじ」へ送還(最終空輸便)
 17日 越冬成立
 28日 昭和基地の気象衛星受画装置(AP T)初受信。
 29日 「ふじ」ケーブタウン入港, 第11次越冬隊下艦, 4月3日出港。
 4月10日 第11次越冬隊帰国。
 12日 第41回南極本部総会, 第13次隊長清野善兵衛, 副隊長(越冬)川口貞男きまる。
 21日 内陸デポ旅行隊基地発(5月3日

- まで)
 30日 S160-JA3 打上げ(1300)
 5月4日 「ふじ」東京入港.
 11日 オーロラ X 線観測バルーン打上げ.
 30日 内陸建設旅行隊(9名)出発(7月26日まで)
 6月24日 S210-JA4 打上げ(0405)
 7月21日 オーロラ X 線観測バルーン打上げ.
 22日 S210-JA3 打上げ(0052), バルーン打上げ.
 8月10日 S210-JA1 打上げ(0523)
 9月14日 S210-JA5 打上げ(0049)
 20日 内陸支援旅行第1陣出発, 第2陣は10月6日発, とともに10月20日帰着.
 25日 S210-JA2 打上げ(0008)
 11月25日 第13次隊「ふじ」で東京出港.
 12月3日 S210-JA6 打上げ(1500)
 12月10日 「ふじ」フリーマントル入港, 16日出港.
 21日 ソビエト隊員昭和基地飛来.

1972年の主な活動

- 1月1日 第13次隊第1便昭和基地へ飛ぶ.
 14日 内陸基地へ第12・13次引継旅行隊出発, 24日帰投.
 29日 ソビエト隊のヘリコプター昭和基地へ飛来.
 2月10日 第13次隊昭和基地の運営を引継ぐ.
 11日 S210-JA12 打上げ(1500)
 17日 夏期野外調査終了
 23日 物資輸送終了(471トン), 「ふじ」昭和基地接岸できず反転. 基地の主な建設施設は放球棟移転, 第13居住棟, 推薬庫の建設, 電離層観測用30m アンテナ, 通信用ログベリアンテナ設置.
 3月21日 「ふじ」は昭和基地の北約35海里地点で幅約5海里の密流氷のため待期. アメリカ砕氷船「ノースウインド」, 「サウスウインド」に救援を要請した.

28日 「ふじ」は氷状好転し0840自力で外洋へ脱出し, ケープタウンへ向った.

5. 極地研究センター刊行物および受入図書雑誌等について

当センター極地研究・資料部では日本南極地域観測隊の研究成果の印刷公表に当たっている. また内外研究者, 研究機関等より図書, 雑誌, 論文などを寄贈および交換によって受け入れている. これらの現況を以下に略記する.

1. 刊行物

刊行物はつぎの3点である

- (1) 「南極資料」(和文および英文)年3回
- (2) 「JARE Scientific Reports」6シリーズ不定期
 Series A (Aeronomy), B (Meteorology), C (Earth Sciences), D (Oceanography), E (Biology), F(Logistics) および Special Issues.
- (3) 「JARE Data Reports」不定期

この機会に現在(昭和47年3月末)までに発行された上記刊行物の一覧をしめしておく. 次回からは当該年度内に発行されたもののみを示すことにする.

(1)「南極資料」

- 昭和32年: 1 (12月)
 33年: 2 (2月), 3 (3月), 4 (7月), 5 (9月)
 34年: 6 (1月), 7 (7月), 8 (10月),
 35年: 9 (1月), 10 (3月)
 36年: 11 (1月), 12 (3月), 13 (10月)
 37年: 14 (1月), 15 (4月), 16 (6月)
 38年: 17 (1月), 18 (3月), 19 (3月)
 39年: 20 (2月), 21 (3月), 22 (3月), 23 (9月)
 40年: 24 (3月), 25 (10月)
 41年: 26 (3月), 27 (12月)
 42年: 28 (3月), 29 (8月), 30 (12月)

- 43年 : 31 (3月), 32 (9月), 33(12月)
 44年 : 34 (3月), 35 (7月), 36(12月)
 45年 : 37 (3月), 38 (8月)
 46年 : 39 (1月), 40 (3月), 41(7月),
 42 (12月)
 47年 : 43 (3月)
- (2) JARE Scientific Reports
 Series A (Aeronomy)
- No. 1. Inter-relations among the upper atmosphere disturbance phenomena in the auroral zone, by T. OGUTI. February 1963
- No. 2. Airglow intensity observed on the Sôya Japanese Expedition Ship to the Antarctic 1956-1962, by M. HURUHATA. October 1963
- No. 3. Geomagnetically conjugate relationship of polar geomagnetic disturbance-Particularly the distinct geomagnetic conjugacy between Syowa Station in Antarctica and Reykjavik in Iceland, by T. NAGATA *et al.* March 1966
- No. 4. Photographic atlas of auroral forms observed at Syowa Station, by E. KANEDA *et al.* March 1968
- No. 5. Geomagnetic and solar modulation effects of sea-level cosmic ray intensity-Summary of cosmic latitude surveys aboard the expedition ship Sôya during 1956-62, by M. KODAMA. August 1968
- No. 6. VLF emission study at Syowa Station, Antarctica-Polar chorus emission and worldwide geomagnetic variation, by S. KOKUBUN *et al.* March 1969
- No. 7. Polarization and arriving direction of VLF emissions, by M. NISHINO *et al.* July 1969
- No. 8. Space-time variation of aurora and geomagnetic disturbances-Auroral observations at Syowa Station in Antarctica, by T. HIRASAWA and K. KAMINUMA. March 1970
- No. 9. Availability and limitation of multiplicity measurements in the NM-64 neutron monitor at Syowa Station, Antarctica, by M. KODAMA and A. INOUE. August 1970
- No. 10. Constitution of polar substorm and associated phenomena in the southern polar region, by T. HIRASAWA and T. Nagata. March 1972
- Series B (Meteorology)
- No. 1. Vertical ozone distribution at Syowa Station, Antarctica, in 1966, by M. SHIMIZU. March 1969
- Series C (Earth Sciences)
- No. 1. Mineralogy of granulite facies rocks in the area around Lützow-Holm Bay, Antarctica, by S. BANNO *et al.* September 1964
- No. 2. Tectonics and petrography of the East Ongul Island, Lützow-Holm Bukt, Antarctica, by K. KIZAKI. December 1964
- No. 3. Geology and petrography of the Yamato Sanmyaku, East Antarctica, by K. KIZAKI. September 1965
- No. 4. Geological research on the bottom sediments sampled by the fifth Japanese Antarctic Expedition, by T. SATO *et al.* October 1965
- No. 5. Petrographic studies of potash feldspar from the Yamato Sanmyaku, East Antarctica, by Y. OHTA and K. KIZAKI. February 1966
- No. 6. Deuterium content of water sub-

stances in Antarctica. Pt. 1, Geochemistry of deuterium in natural water on the East Ongul Island, by M. AMBE. February 1966

Series D (Oceanography)

No. 1. Distribution of uranium in the Indian and the Southern Ocean waters, by T. TORII and S. MURATA. September 1964

Series E (Biology)

No. 18. Variations on some pennate diatoms from Antarctica 1, by T. KOBAYASHI. March 1963

No. 19. On the microfauna of the Antarctic Region. 1. Moss-water community at Langhove, by M. SUZUKI. March 1964

No. 20. A study of stylasterina from the Antarctic Sea, by M. EGUCHI. September 1964.

No. 21. Taxonomic studies of appendicularians collected by the Japanese Antarctic Research Expedition, by T. TOKIOKA. September 1964

No. 22. Two small collections of copepods from Antarctic, by O. TANAKA. December 1964

No. 23. Some octocorals from the Antarctic waters off Prince Harald Coast, by H. UTINOMI. December 1964

No. 24. Variations on some pennate diatoms from Antarctica, 2, by T. KOBAYASHI. March 1965.

No. 25. A giant antarctic barnacle *Hexelasma antarcticum* Borradaile (Cirripedia, Thoracia), by H. UTINOMI. October 1965

No. 26. On the species of crania (Branchio-

poda) from Antarctica, by K. HATAI. October 1965

No. 27. Additional species of fungi isolated from the Antarctic materials, by K. TUBAKI and I. ASANO. October 1965

No. 28. On some deep water corals from the Antarctic Sea, by M. EGUCHI. October 1965

No. 29. Ecological study of the moss community and microorganisms in the vicinity of Syowa Station, Antarctica, by T. MATSUDA. November 1968

No. 30. Lichens of the Prince Olav Coast, Antarctica, by H. KASHIWADANI. February 1970

No. 31. The protozoan plankton of the Antarctic and Subantarctic seas, by Y. HADA. August 1970

Series F (Logistics)

No. 1. Report on the food provided for the Japanese Antarctic Research Expedition, by M. HARA. March 1964

Special Issue

No. 1. Proceedings of the Symposium on Pacific-Antarctic Sciences, ed. by T. NAGATA. February 1967

No. 2. Report of Japanese Traverse Syowa-South Pole, ed. by M. MURAYAMA. March 1971

(3) JARE Data Reports

No. 1 (Aurora) Records of all-sky camera operations at Syowa Station, Antarctica in 1966. August 1968

No. 2 (Ionosphere) Riometer records of 30 MHz cosmic noise at Syowa Station Antarctica from February 1967 to

- February 1968. November 1968
- No. 3 (Aurora) Records of all-sky camera utilization at Syowa Station, Antarctica, 1967. December 1968
- No. 4 (Seismology) Seismological bulletin of Syowa Station, Antarctica, 1957-1962 and 1966-1968. March 1969
- No. 5 (Ionosphere) Records of radio aurora at Syowa Station, Antarctica from March 1966 to January 1968. March 1969
- No. 6 (Seismology) Seismological bulletin of Syowa Station, Antarctica, 1968-1969. March 1970
- No. 7 (Ionosphere) Riometer records of 30 MHz cosmic noise at Syowa Station, Antarctica from February 1968 to January 1969. March 1970
- No. 8 (Ionosphere) Riometer records of 30 MHz cosmic noise at Syowa Station, Antarctica, 1969. November 1970
- No. 9 (Seismology) Seismological bulletin of Syowa Station Antarctica, 1969. November 1970
- No. 10 (Aurora) Records of all-sky camera utilization at Syowa Station, Antarctica in 1968-1969. March 1971
- No. 11 (Meteorology) Data of atmospheric electricity at Syowa Station in 1969-1970. March 1971
- No. 12 (Seismology) Earthquake interpretation at Syowa Station, Antarctica. July 1961
- No. 13 (Aurora) Records of all-sky camera utilization at Syowa Station, Antarctica in 1970. August 1971
- No. 14 (Ionosphere) Riometer records of 39 MHz cosmic noise at Syowa Station, Antarctica in 1970. November 1971
- No. 15 (Ionosphere) Records of radio aurora at Syowa Station, Antarctica from April 1970 to February 1971. February 1972
- No. 16 (Seismology) Seismological bulletin of Syowa Station, Antarctica 1970. March 1972
2. 寄贈資料受入報告
1970年8月～1972年3月
遠藤八十一
中央ネパールヒマラヤ地質氷河調査隊編：
中央ネパール，札幌，同編所，1968.
柿沼清一
The Sound of Antarctica; Recorded and introduced by Hank Curth, Wellington, A. H. & A. W. Reed, 1965.
木村征男
木村征男：南極越冬新聞 S10トピックス，東京，日本放送出版協会，1970.
楠 宏
University of Chicago Press: A Manual of Style, Chicago, 1950.
Bechervaise, John: Australia and Antarctica; Around Australia Program, Lane Cove, Nelson Doubleday, 1967.
立見辰雄
南極探検後援会編：南極記，東京，成功雜誌社，1913.
高木四郎：昭和基地—南極の日本観測隊—(アサヒニュースブック)，東京，朝日新聞社，1957.
加納一郎：極地の探険・南極，東京，時事通信社，1959.
加納一郎 極地の探険・北極，東京，時事通信社，1960.
加藤地三：南極と北極 (少国民の科学6)，東京，新潮社，1959.
チェリー・ガロード著，加納一郎訳：世界最悪の旅 (世界探検紀行全集12)，東京，河出書房，1955.

- ウォルター・サリバン著, 田中融二訳: 南極大陸一人間の記録—(世界の人間記録), 東京, 講談社, 1958.
- ウォルター・サリバン著, 福島直訳: 国際地球観測年, 東京, 時事通信社, 1960.
- コーリン・ベルトラム著, 加納一郎訳: 北極圏と南極圏, 東京, 朋文堂, 1942.
- 中野征紀: 南極越冬日記, 東京, 朝日新聞社, 1958.
- 砂田正則: 南極の食卓—越冬隊員の胃袋日記一, 京都, 淡交新社, 1958.
- 海上保安庁水路部: 国際地球観測年南極洋資料, 1955.
- ANARE1954 作業便覧.
- マウントエバンス著, 加納一郎訳: 南極へ挑む (Expedition Series 2), 東京, 朋文堂, 1956.
- 朝比奈菊雄編: 南極観測, 東京, 出版協同社, 1958.
- 科学読売編: 南極—“第七の大陸”その知られざるもの, 東京, 妙義出版, 1956.
- ロアルト・アムンゼン著, 加納一郎訳: アムンゼン探検誌, 東京, 朋文堂, 1942.
- 菊池 徹: 南極の犬ぞり—氷原1600キロ走行記一, 東京, 法政大学出版局, 1959.
- 朝比奈菊雄: ペンギン日記, 東京, 読売新聞社, 1957.
- 松本満次: 南極輸送記, 東京, 創元社, 1959.
- 松本満次: 宗谷, 東京, 武蔵書房, 1957.
- 犬飼哲夫, 加納一郎編: からふといぬ, 東京, 日本評論新社, 1959.
- 藤原一生: タロ・ジロは生きていた, 東京, トモブック社, 1959.
- ポール・フレイジャー著, 加納一郎訳: 南極に挑む (時事新書), 東京, 時事通信社, 1960.
- V. フックス, E. ヒラリー共著, 山田晃訳: 南極横断—地球上最後の冒険—, 東京, 光文社, 1959.
- エリ・フヴァット著, 佐藤清郎訳: 謎の大陸—南極探検物語—, 東京, ベースボールマガジン社, 1958.
- ジェニー・ダーリントン, ジェーン・マキルヴェイン共著, 田中融二訳: 南極新婚旅行, 東京, 講談社, 1959.
- 朝日新聞社編: 南極大陸—日本観測隊の写真記録—, 東京, 朝日新聞社, 1957.
- Joerg, W. L. G., ed.: Problems of Polar Research (American Geographical Society, Special Publication, No. 7), New York, American Geographical Society, 1928.
- Simpson, Frank A., ed.: The Antarctic Today; A Mid-Century Survey by the New Zealand Antarctic Society. Wellington, A. H. and A. W. Reed, 1952.
- Buedeler, W.: The International Geophysical Year (UNESCO and Its Programme XV), Paris, UNESCO, 1957.
- Bertram, G. C. L.: Antarctica Today and Tomorrow. Cambridge, the University Press, 1958.
- Byrd, Richard E.: Alone; A Book Condensation. Suppl. to Arnold Bakers Breadwinner, 1953.
- Sekyra, Josef: V horach a oázách Antarktity (Z Geologického deniku). Praha, Academia, 1970.
- Clift, A. Denis: Our World in Antarctica. New York, Rand McNally, 1962.
- The Committee for the Preservation of the Polar Ship Fram: Fram. Oslo, 1961.
- U. S. Navy Hydrographic Office: Sailing Directions for Antarctica (Suppl. to H. O. Pub. 138). Washington, 1957.
- Bertram, Colin: Arctic and Antarctic: A Prospect of the Polar Regions. Cambridge, W. Heffer & Sons, 1957.
- Гусев, А. М.: В снегах Антарктиды. Москва, Изд. Акад. Наук, 1961.
- Roberts, Brian: Chronological List of Antarctic Expedition. Reprinted from the Polar Record, Vol. 9, No. 59, 1958.

- Debenham, Frank: *Antarctica; The Story of a Continent*. London, Herbert Jenkins, 1959.
- Fuchs, *Sir Vivian*: *Antarctic Adventure; The Commonwealth Trans-Antarctic Expedition 1955-58*. London, Cassell, 1959.
- Gjaever, John: *The White Desert; The Official Account of the Norwegian-British-Swedish Antarctic Expedition*. London, Chatto & Windus, 1954.
- Kirwan, L. P.: *The White Road; A Survey of Polar Exploration*. London, Hollis & Carter, 1959.
- Anderson, W. Ellery: *Expedition South*. London, Evans Brothers, 1957.
- Fuchs, *Sir Vivian*: *The Crossing of Antarctica; The Commonwealth Trans-Antarctic Expedition 1955-58*. London, Cassell, 1958.
- Barber, Noel: *The White Desert*. London, Hodder and Stoughton, 1958.
- U. S. Navy Department, Hydrographic Office: *Sailing Directions for Antarctica; Including the Off-Lying Islands South of Latitude 60° (H. O. No. 138)*. Washington, U. S. Government Printing Office, 1943.
- Commonwealth of Australia, Department of External Affairs: *Australian National Antarctic Research Expedition 1956 Operations Manual; Mawson and Mcquarie Island*. (Melbourne), Department of External Affairs, 1956.
- 鳥居鉄也
鳥居鉄也編：南極，東京，毎日新聞社，1970。
鳥居鉄也：南極の氷，東京，共立出版，1971。
- 海上保安庁水路部
海上保安庁水路部編：アラスカ沿岸水路誌 第1-2巻，東京，海上保安庁，1961-62。
- 海上保安庁水路部編：簡易天測表，第7巻，1971
海上保安庁水路部編：天測計算表，1971
海上保安庁水路部編：航海用計算図表，1953
海上保安庁水路部編：水路図誌目録，1968
極洋捕鯨株式会社
極洋捕鯨30年史編集委員会編：極洋捕鯨30年史，東京，極洋捕鯨株式会社，1968。
日本雪氷学会
日本雪氷学会編：雪氷の研究，No. 3，1960。
日本雪氷学会編：雪氷の研究，No. 4，1970。
日本水路協会
海上保安庁水路部編：日本水路史，東京，日本水路協会，1971
日本造船研究協会
日本造船研究協会編：砕氷型商船と北方航路その他の研究，東京，同編所，1968。
社会思想社
ローレンス・カーワン著，加納一郎訳：白い道—極地探険の歴史—，東京，社会思想社，1971。
- Mr. Henry S. Francis Jr.
Center for Polar Archives, The National Archives (Director: Herman R. Friis).
なお，上記の期間以前に下記の方々より資料の寄贈を受けております。ここに記して謝意を表します。
吉沢文庫（吉沢一郎氏寄贈），昭和38年4月，和書 42冊，洋書 21冊，新聞きりぬき 30冊，
松尾文庫（松尾清秀氏より松方三郎氏を通じて寄贈）昭和40年6月，洋書14冊。
3. 受入雑誌目録
1972年4月
地質調査所月報. 川崎. 10(1959)-[11(6)]
-22(1971)+
函館海洋気象台要報. 函館. 16(1972)+
IHD (国際水文学10年計画). 東京. 1(1967)
-17(1971)+

- *科学. 東京. 岩波. 40(1970)–42(1972)+
 *科学朝日. 東京. 30(1970)–32(1972)+
 *海洋科学. 東京. 1(1969)–4(1972)+
 気象. 東京. 1(1957)–[13, 37–38, 43–48]
 –49(1961).
 気象庁図書月報. 東京. 16(1970)–17(1971)
 +
 気象庁研究時報. 東京. 21(1969)–23(1971)
 +
 国際地球観測年観測結果報告. 東京. 3(1958)
 –4(1958).
 国際地球観測資料室資料目録. 東京. 1(1961)
 –10(1971)+
 極研時報. 札幌. 1(1956)–5(1956).
 極地. 東京. 1(1965)–7(1971)+
 南極資料. 札幌. 1(1956)–13(1957)//
 雪氷. 東京. 1(1941)–33(1971)+
 *自然. 東京. 25(1970)–27(1972)+
 *消費者. 東京. 137(1971)–149(1972)+
 測候時報. 東京. 38(1971)–39(1972)+
 測地学会誌. 東京. 7(1961)–17(1971)+
 水路部研究報告. 東京. 6(1971)+
 低温科学. 札幌. 1(1944)–10(1953).
 生物篇. 11(1954)–28(1971)+
 物理篇. 11(1953)–29(1972)+
 天測歴 (南極用) 東京. 42(1965)–[44]–47
 (1970)+
 東京大学地震研究所彙報. 東京. 45(1967)–
 49(1971)+
 東京水産大学特別研究報告. 東京. 1(1958)
 –9(1968)+
 山. 東京. 259(1967)–319(1972)+
 Årbøger. Publikationer fra det Danske Me-
 teorologiske Institut. Charlottenlund.
 1946(1948)–1964(1971)+
 Abhandlungen der Senckenbergischen Na-
 turforschenden Gesellschaft. Frankfurt.
 509(1966)–[511–512, 514]–529(1971)+
 Acta Arctica. Societas Arctica Scandinava.
 Copenhagen.
 1(1943)–17(1971)+
 Acta Biologica. Nova Series. Szeged, Hunga-
 ria.
 7(1961)–16(1970)+
 Acta Botanica Fennica. Helsinki.
 66(1964)–[69, 71]–72(1966).
 Allan Hancock Monographs in Marine Bi-
 ology. Los Angeles.
 1(1966)–5(1970)+
 Allan Hancock Pacific Expeditions. Los
 Angeles.
 2(8, 12) (1938–39), 5(4), 13(1–3), 26
 (1), 27(4–5)(1967).
 Alpine Journal; Record of Mountain Adven-
 ture and Scientific Adventure. London.
 307(1963)–317(1968)+
 ANARE(Australian National Antarctic Re-
 search Expeditions) Report. Melbourne.
 1(1950)–[4, 7–8, 49, 101–102, 107, 109,
 111–112]–113(1970)+
 Annalen der Meteorologie. Neue Folge. Of-
 fenbach.
 1(1963)–5(1971)+
 Annales Botanici Fennici. Helsinki.
 27(1954)–[30(1)]–35(1964): Annales
 Botanici Societatis Zoologicae–Botanicae
 Fennicae ‘Vanamo’.
 1(1964)–8(1971)+: present title.
 Annales Zoologici Fennici. Helsinki.
 8(1954)–[10–15]–25(1963): Annales
 Zoologici Societatis Zoologicae–Botanicae
 Fennicae ‘Vanamo’.
 1(1964)–8(1971)+: Present title.
 Annual Report. The Arctic Institute of
 North America. Montreal.
 1959–[1962, 1964]–1970+
 Annual Report. Boreal Institute for North-
 ern Studies, University of Alberta.
 Edmonton, Canada.
 1963/64–[1964/65–1968/69]–1970/71+
 Annual Report. Geophysical Institute, Uni-

- versity of Alaska. Barrow.
 1965/66–1970/71+
 Annual Report. Institute for Northern Studies, University of Saskatchewan. Saskatoon.
 6(1965–66)–11(1970–71)+
 Annual Report of the Commissioner of the Northwest Territories. Ottawa.
 1964/65–[1968/69]–1971+
 Annual Report of Geophysical Observations Made at the International Latitude Observatory of Mizusawa. Mizusawa.
 1968–1969+
 Annual Report of the International Polar Motion Service. Mizusawa.
 1962–1970+
 Annual Report of the Meteorological Observations Made at the International Latitude Observatory of Mizusawa. Mizusawa.
 1969+
 Annual Report on Research. Moss Landing Marine Laboratories.
 1(1971)+
 Antarctic; A News Bulletin Published Quarterly by the New Zealand Antarctic Society. Wellington.
 1(1956)–6(1971)+
 Antarctic Journal of the United States. Washington, D. C.
 1964–65 : Antarctic Report.
 1(1966)–7(1972)+ : Present title.
 Antarctic Meteorological Data. Japan Meteorological Agency. Tokyo.
 1(1963)–11(1971)+
 Antarctic Status Report. U. S. Antarctic Research Program. Washington, D. C.
 1(1959)–[20–21]–60(1963).
 Antarctica, Commission Reports. Translation of 'Antarktika'. Washington, D. C.
 1960–[1964–66]–1967+
 Antarktiese Bulletin. Pretoria.
 1(1964)–2(1970)+
 Antarktika, Doklady Komisii. Moskva.
 1960–1968+
 Archivum Societatis Zoologicae Botanice Fennicae 'Vanamo'. Helsinki.
 8(1953)–18(1964).
 Arctic; Journal of the Arctic Institute of North America. Montreal.
 2(1949)–24(1971)+
 Arctic Circular. Ottawa.
 1(1948)–[2(5), 3(5), 4(1, 3–6), 6(3), 7(1–3), 8(1), 14(2–3), 18(3–4)]–21(1971)+
 *Arctic and Northern Development Digest. Montreal.
 1(1969)–3(1971)+
 Arctic Institute of North America Newsletter. Montreal.
 1968–1972+
 Arctic Summary; A Semi Annual Summary of Meteorological Data. Toronto.
 1961–1971+
 Arktisk Instituts Årsberetning. Charlottenlund.
 1960–1962+
 Astarte; Journal of Arctic Biology. Tromsø.
 4(1971)+
 Beretninger vedrørende Grønland. Godthåb.
 1964(6), 1965(6), 1966(1, 6), 1967(1, 4–6), 1968(1–6)+
 Biological and Oceanographical Survey of the Santa Barbara Channel Oil Spill 1969–70. Los Angeles.
 1(1971)–2(1971)+
 Boletim do Museu Nacional. Nova Serie. Rio de Janeiro.
 Botanica.
 37(1968)–41(1971)+
 Geologia.
 33(1969)–41(1971)+
 Zoologia.

- 266(1969)–[273]–284(1971)+
 Boletim da Sociedade Brotiana. Instituto Botânico da Universidade de Coimbra. Coimbra.
 36(1962)–44(1970)+
 Boletín. Instituto Antártico Chileno. Santiago.
 3(1968)–5(1970)+
 Boletín del Instituto Antártico Argentino. Buenos Aires.
 1(3–10)(1958–62).
 Boletín del Instituto de Biología Marina. Mar del Plata, Argentina.
 4(1964)–20(1971)+
 Boletín del S.C.A.R. Instituto Antártico Argentino. Buenos Aires.
 2(1959)–[14, 17, 20]–31(1969)+
 Boletín del Servicio de Hidrografía Naval. Armada, Argentina.
 2(1–3)(1964–65)–3(1966).
 Bollettino del Comitato Glaciologico Italiano. Torino.
 11(1964)–[12(1), 13, 15(1)]–18(1970)+
 British Antarctic Survey Bulletin. London.
 1(1963)–26(1971)+
 Bulletin. Sea Fisheries Research Station. Haifa, Israel.
 33(1963)–39(1965)+
 Bulletin. U. S. Antarctic Project Officer. Washington, D. C.
 1(4, 6–7, 10)(1960), 2(2–3, 5–10, suppl.), 3(1, 3–4, 6), 4(1), 5(2, 6, 9–10), 6(1–7)(1964–65)//
 Bulletin d'Information. Bruxelles.
 1–3(1960).
 Bulletin d'Information. Expédition Polaires Françaises. Paris.
 7(1959)–23(1967)+
 Bulletin of the British Museum (Natural History). Geology. London.
 3(1956–59)–[7(3–5)]–20(1971)+
 Supplement: 1(1965)–9(1971)+
 Bulletin of the Scripps Institute of Oceanography, University of California. San Diego.
 13(1970)–17(1970)+
 Byulleten Stantsiy Opticheskogo Nablyudeniya Iskusstvennykh Sputnikov Zemli. Moskva.
 10(1960), 25–31, 41–46, 51–54, 56 (1970)+
 Canadian Journal of Earth Sciences. Ottawa.
 3(1966–67)–9(1972)+
 Catalogue des Coupures de Presse. Collection Gardner. Montreal.
 1(1967)–19(1971)+
 Catalogue of Data. World Data Center A. Oceanography.
 6(1970)+
 Catalogue of Data in the World Data Center C 2 for Geomagnetism. Kyoto.
 1969–1972+
 Chronique de l'UGGI. Union Géodésique Internationale. Paris.
 1(1957)–[24–25]–82(1971)+
 Climatological Data for Antarctic Stations. Washington, D. C.
 1(1962)–[4]–9(1966)+
 CNFRA (Comité National Français des Recherches Antarctiques). Paris.
 11(1965)–[13–14]–30(1971)+
 Commentationes Biologicae. Societas Scientiarum Fennica. Helsinki.
 22(1961)–[31]–46(1971)+
 Commentations Physico-Mathematicae. Helsinki.
 30(1965)–[32–33]–41(1971)+
 Contribucion del Instituto Antártico Argentino. Buenos Aires.
 1(1959)–[54–59, 63, 67]–68(1967)+
 Contribucion del Instituto de Biología Marina. Mar del Plata.

- 17(196?)–25(1963).
 Contribution. Marine Biological Laboratory,
 University of Copenhagen. Helsingør.
 37–[38–41, 50–53]–75(1971)+
- Contribution. Sedimentological Research
 Laboratory, Florida State University.
 Tallahassee.
 1(1961)–[2–4, 6, 8–12, 14–15, 23, 25]
 –29(1969)+
- Contributions of the Geophysical Institute,
 University of Alaska, College.
 Series A,
 3(1952)–[8, 26–27, 31, 34, 37, 48–49,
 52, 59, 61, 74–75, 88–89, 111, 114, 143,
 146, 161–162, 170, 236–276, 279, 281,
 285, 287–289, 291–292]–293(1969)+
 Series B.
 1(1952)–[6, 9, 11, 15–16, 19, 24, 30,
 41, 44–45, 48–50, 54, 60, 72, 74, 78,
 84–85, 164–175, 184, 186]–188(1969)+
- Contributions du Centre d'Etudes Arctiques
 et Finno Scandinaves. Paris.
 8(1970)+
- Contributions from the Institute of Low
 Temperature Science, Hokkaido Univer-
 sity. Sapporo.
 1(1952)–[7, 9–12]–16(1960).
 Series A.
 17(1962)–23(1971)+
 Series B.
 11(1962)–16(1971)+
- Contributions in Oceanography. Texas A &
 M University. College Station.
 13(1969–70)–14(1970–71)+
- Cosmic-Ray Intensity during the Post
 International Geophysical Co-operation.
 Science Council of Japan, Tokyo.
 3(1960)–7(1963).
- Danish Arctic Research; Report from
 Arktisk Institut. Charlottenlund.
 1(1960)–9(1965)+
- Data on Topside Ionosphere; Electron Den-
 sities and Scale Heights from Alouette
 II Observation Over Japan. Tokyo.
 1(1970)–3(1972)+
- Disturbances in Aeronomical Phenomena
 during the International Geophysical
 Year. Science Council of Japan. Tokyo.
 1(1957)–10(1958).
- Division of Sea Fisheries Investigational
 Report. Cape Town.
 68(1969)–[71, 73, 84, 89]–94(1971)+
- Ecological Monographs. Ecological Society
 of America. Durham.
 35(1965)–41(1971)+
- Eiszeitalter und Gegenwart: Jahrbuch der
 Deutschen Quartärvereinigung. Oehrin-
 gen-Quartt.
 10(1959)–[15, 17–18]–21(1970)+
- Die Erde; Zeitschrift der Gesellschaft für
 Erdkunde zu Berlin. Berlin.
 102(1971)+
- Expedition Antarctique Belgo-Neelandaise.
 Brussel.
 Atmospheric electricity.
 1964+
 Geomagnetism.
 1964–1966+
 Ionosphere.
 1964+
 Meteorology.
 1964–1966+
 Radioactivite atmosferique.
 1964–1966+
 Sondages ionospherique riometre.
 1965+
- Explorers Club News. New York.
 1(1970)–7(1971)+
- Explorers Journal. Explorers Club. New
 York.
 40(3)(1962)–[46(1)]–50(1972)+
- Fisheries Bulletin. Cape Town.

- .6(1970)+
 Fishery Bulletin. U. S. Department of Commerce.
 68(3)(1971), 69(2-4), 70(1)(1972)+
 Földrajzi Közlemények. Budapest.
 11(2)(1963)–19(1971)+
 Fur Seal Investigations; Special Scientific Report–Fisheries. Washington, D. C.
 1966–1968+
 Geofizicheskiy Byulleten. Moskva.
 10(1961)–21(1969)+
 The Geophysical Magazine. Japan Meteorological Agency. Tokyo.
 35(1970–71)+
 Geotimes; News of the Earth Sciences. Wellington.
 8(6–8)(1964), 9(1), 12(2–7, 9–10), 13–17(1972)+
 Glaciological Notes. New York.
 1(1960)–48(1971)+
 Government Activities in the North. Ottawa.
 1962–1967, 1970+
 Grønland; Årsberetning. Ministeriet for Grønland. Godthåb.
 1968–1970.
 Grønlands Botaniske Undersøgelse. København.
 1971+
 Grønlands Geologiske Undersøgelse. Miscellaneous Papers. Copenhagen.
 1(1948)–67(1969)+
 Grønlands Geologiske Undersøgelse. Rapport. Copenhagen.
 1(1964)–30(1970)+
 Grønlands Landsrads Forhandlinger. Godthåb.
 Efttrassamling.
 1969–1971.
 Forarssamling.
 1969–1970.
 Grønlands Skolevaesen. Godthåb.
 1967–68.
 High Latitude Geophysical Data. Ser. UAG-C. College.
 1(1959)–[27–28, 33, 35, 37]–52(1968)//
 Ice; News Bulletin of the British Glaciological Society. Cambridge.
 1(1958)–36(1971)+
 Ice Cap News. American Society of Polar Philatelists. El Paso.
 13(2, 4)(1968), 15(5), 16(5–6), 17(1972)+
 Icefield Range Research Project Scientific Results. Montreal.
 1(1969)–2(1970)+
 IG (International Geophysics) Bulletin. Washington, D. C.
 21(1959)–[43]–61(1962); IGY Bulletin.
 62(1962)–96(1965) : Present title.
 IGU (International Geographical Union) Bulletin. Chicago.
 20(1969)–22(1971)+
 IGY Glaciological Report. IGY World Data Center A: Glaciology. New York.
 1(1953)–7(1963).
 Informatsionyi byulleten. Mezhdunarodnyy Geofizicheskiy God. Moskva.
 2(1957)–9(1961).
 Informatsionyi byulleten Sovetskoi Antarkticheskoi Ekspeditsii. Moskva.
 1(1958)–[67]–80(1970)+
 Information Bulletin. Soviet Antarctic Expedition. Washington.
 1(1964)–7(1970)+
 Informes Climatologicos. Buenos Aires.
 Estacion Base Antartica “Arturo Prat”
 1967–1969+
 Estacion Base Antartica “General Bernardo l’Higgins”
 1967–1969+
 Inter Nord. Center of Arctic and Antarctic Studies. Paris.
 2(1961)–[5–8]–9(1967)+

- International Geophysical Year (1956–58).
World Weather Map, Pt. 3. Southern Hemisphere South of 20°S. Weather Bureau, South Africa.
July (1957)–[Aug. (1958)]–Dec.(1958).
- Investigation Pesquera. Barcelona.
28(1965)–[31–32]–35(1971)+
- Ionospheric Data Syowa Base (Antarctica).
Tokyo.
1(1962)–13(1971)+
Supplement
1(1958)–5(1964)+
- Iskusstvennye Sputniki Zemli. Moskva.
9(1961)–[12–13, 16]–17(1963).
- Issledovaniya Severnoy Chasii Atlanticheskogo Okeana. Moskva.
3(1964)–4(1965).
- Issledovaniya Lednikov i Ledikovykh Rayonov. Moskva.
1(1961)–3(1963).
- Jahresbericht. Deutsches Hydrographisches Institut. Hamburg.
1969+
- Japanese Contribution to the International Geophysical Year and the International Geophysical Co-operation. Tokyo.
1(1958)–7(1966)//
- *Journal of Geomagnetism and Geoelectricity. Tokyo.
16(1964)–23(1971)+
- *Journal of Geophysical Research. Washington.
71(1966)–77(1972)+
- Journal of Glaciology. Cambridge.
1(1947)–10(1971)+
- Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom. Plymouth.
41(1961)–52(1972)+
- Journal of the Tokyo University of Fisheries. Tokyo.
36(1949)–[48]–57(1971)+
- Katalog Dannykh i pu'likadiy p Arktike i Antarktike. Moskva.
1(1962)–3(1967)+
- Det Kongelige Norske Videnskabers Selskab Skrifter. Trondheim, Norway.
1(1970)–10(1970)+
- Library Accessions List. The Boreal Institute for Northern Studies. University of Alberta. Edmonton, Canada.
2(1971)–[3–9]–15(1972)+
- *Limnology and Oceanography. Lawrence.
12(1967)–16(1971)+
- McGill Sub-Arctic Research Papers. Montreal.
9(1960)–[10, 16]–25(1970)+
- MDRP (Mackenzie Delta Research Project). Ottawa.
1(1967)–11(1971)+
- Manuscript Report Series. Marine Sciences Branch, Department of Energy, Mines and Resources. Ottawa.
16(1971)–[19]–21(1971)+
- Marine Mammal Newsletter. National Museum of Natural History. Washington.
1(1971)–4(1972)+
- The Marine Observer; A Quarterly Journal of Maritime Meteorology. Meteorological Office. Bracknell, England.
41(1971)–42(1972)+
- Marine Science Contents Tables. FAO, Rome.
5(1970)–7(1972)+
- Meddelanden. Sveriges Meteorologiska och Hydrologiska Institut. Stockholm.
Series A.
5(1969)+
Series B.
1(1945)–[8, 14, 30]–31(1969)+
- Meddelelser. Det Danske Meteorologiske Institut. Charlottenlund.
22(1969)+

- Meddelelser om Grønland; Udgivne af Kommissionen for Videnskabelige Undersøgelser i Grønland. København.
165(1968)–194(1972)+
- Memoranda Societatis pro Fauna et Flora Fennica. Helsinki.
1(1924)–47(1971)+
- Memorial de la Meteorologie Nationale. Ministere Travaux Publics de Transports et du Tourisme. Alsace Lorraine, France.
33(1950)–[34–35, 38–40, 42–45]–52(1970)+
- Merzlotnye Issledovaniya. Moskva.
5(1966)–[7]–19(1970)+
- Meteorologiya i Gidrologiya. Moskva.
1957–[1958(10), 1959, 1960(1–4), 1961(1–3, 10), 1962, 1963(1–2, 5–12), 1967(1–4), 1968(10)]–1972+
- Mitteilungen des Deutschen Wetterdienstes. Bad Kissingen.
23(1960)–[24–25]–39(1966)
- Monographies de la Météorologie Nationale. Paris.
14(1959)–84(1971)+
- Monthly Bulletin for SANA E, Antarctica. Ionospheric Data. Grahamstown.
1962(6–12), 1963(1–6, 11–12), 1965(1–8), 1966–1967, 1968(2–3) : Monthly Bulletin of Ionospheric Characteristics Observed at SANA E Base.
1968(4–12), 1969(1–8), 1970(6–12), 1971(1)+ : Present title.
- Monthly Climatic Data for the World. Washington, D. C.
3(7, 10, 12)(1950)–[4(3, 8, 12), 5(3–6), 6(6), 8(1)]–24(1971)+
- Monthly Weather Review. Washington, D. C.
89(11)(1961), 90–100(1972)+
- Moss Landing Marine Laboratories. Newsletter. Moss Landing, Calif.
1(1969)+
- Musk Ox. Saskatoon.
1(1967)–9(1971)+
- Nachrichten aus dem Karten- und Vermessungswesen. Frankfurt.
23(1969)–[27]–28(1971)+
Sonderheft.
1968–1969+
- National Geographic. National Geographic Society. Washington, D. C.
116(1959)–[118(4), 120(2–6), 121(1, 3–4, 6), 122, 127(2), 131(1–5), 132–136, 137(1–3, 5–6), 138–139(1–2)]–141(1972)+
- *Nature. London.
229(1971)–236(1972)+
- NCRC (Northern Co-ordination and Research). Ottawa.
57(1)(1957), 59(1–3), 60(1–2), 61(1–4, 6–7), 62(1–8), 63(1–5, 7–10), 64(1), 65(2), 66(1–2), 67(1–2)+
- New Zealand Journal of Geology and Geophysics. Special Antarctic Issue. Wellington.
1st(1962)–[4]–6th(1971)+
- New Zealand Oceanographic Institute Collected Reprints. Wellington.
1958–[1960]–1971+
- New Zealand Oceanographic Institute Memoires. Wellington.
1(1955)–[15, 31, 34, 53–55, 57]–59(1971)+
- Norsk Polarinstitutt Årbok. Oslo
(1970)+
- Norsk Polarinstitutt Skrifter. Oslo.
148(1969)+
- North. Ottawa.
10(4)(1963)–[12(1)]–19(1972)+
- The Northern Engineer. College.
1(1968)–3(1971)+
- Notos. Department of Transport. Weather

- Bureau. Pretoria.
6(3-4)(1957) - [9] - 13(1964).
- NSRG (Northern Science Research Group).
Ottawa.
68(1)(1968), 69-71(1971) +
- Nuusbrief. Weather Bureau. Pretoria.
139(1960), 154, 159-163, 179-200, 217,
220, 225, 227, 238(1969).
- Occasional Publication. Boreal Institute for
Northern Studies, University of Alberta.
Edmonton, Canada.
1(1964) - 7(1971) +
- The Oceanographic Magazine. Tokyo.
20(1968) - 23(1972) +
- Ohio Journal of Science. Columbus, Ohio.
64(1964) - 71(1971) +
- *Okeanologiya. Moskva.
8(1968) - 12(1972) +
- Polar Notes; Occasional Publication of the
Stefansson Collection. Hanover.
1(1959), 3, 9-10(1970) +
- Polar Record. Scott Polar Research Insti-
tute. Cambridge.
1(1931) - [8(54)] - 15(1970) +
- *Polar Times. American Polar Society.
Rego Park, N. Y.
40(1955) - 41, 44, 50, 71(1970) +
- Polarboken. Oslo.
1959 - 1962.
- Polarforschung. Had Harzburg, Germany.
1(1931) - [16] - 37(1968) +
Beiheft.
1(1956) - 2(1960) +
- Il Polo; Revista Semestrale dell'Instituto
Geografico Polare. Civitanova Marche.
1(1)(1946), 4, 8- [12] - 27(1971) +
- Poolpost.
2(13)(1968), 3(15-26)(1971): Poolpraat.
4(1972) +: Present title.
- Post IGY Data on Atmospheric, Whistlers
and Solar Radioemissions. Tokyo.
4(1960) - 9(1963).
- *Priroda. Moskva.
1972 +
- Problem'i Arktiki i Antarktiki. Moskva.
3(1960) - [4, 10] - 38(1971) +
- Problemy Severa; Stroitel'stvo na Krai-
nem Severe. Moskva.
4(1961) - [5, 8-9] - 10(1964) +
- Proceedings of the Research Institute of
Atmospherics. Nagoya University.
12(1965), 16(1969) - 17(1970) +
- Przegląd Geofizyczny. Warszawa.
10(1965) - 16(1971) +
- Publication. Centre National de Recherches
Polaires de Belgique. Expedition Ant-
arctique Belge 1959. Bruxelles.
Series A.
1(1966), 3(1967) +
- Series B.
1(1959).
- Publicacion. Instituto Antartico Argentino.
Buenos Aires.
1(1955) - [2-3, 5] - 8(1960) +
- Publicacion. Instituto Antartico Chileno.
Santiago.
2(1964) - [3, 6, 9] - 16(1968) +
- Publication Series of Center for Settlements
Studies. Winnipeg.
Series 1. Annual and Progress Reports.
3(1970) +
- Series 2. Research Reports.
1(1969) - [3, 5] - 8(1971) +
- Series 3. Bibliography and Information.
1(1969) - 3(1970) +
- Series 5. Occasional Papers.
1(1970) +
- Publico. Servicio de Hidrografia Naval. Sec-
retaria de Marina. Buenos Aires.
H 405(1959) - 406, 408, 410, 901-903,
907, 910-911, 914, 1025(1968) +
- Publikasjoner fra det Norske Institutt for

- Kosmik Fysikk. Bergen.
46(1960) – [47-49] – 56(1967) +
- Rapport. Office de la Recherche Scientifique et Technique Outre-Mer. Centre de Noumea. Oceanographie.
1(1966) – 36(1969) +
- Rapport d'activité des Expéditions Antarctiques Françaises. Paris.
1956/58 – 1957/59 +
- Rapport du Centre de Recherches Arctiques. Montreal.
1966 – 1967/68 +
- Rapports Préliminaires. Expédition Polaires Françaises. Paris.
5(1954) – [8, 10-13, 15, 18] – 21(1953) +
- Referatny Zhurnal. Moskva.
Geofizika. B. Meteorologiya i Klimatologiya.
1968(5) – 1972 +
Geografiya. K. Geografiya Ameriki, Avstralii Okeanii i Antarktiki.
1968(5) – 1972 +
Geografiya. V. Okeanologiya, Gidrologiya Sush, Glayatsiologiya.
1968(5) – 1972 +
- Report. Institute of Polar Studies. Ohio State University. Columbus, Ohio.
9(1964) – [18-19, 22, 25-26, 30, 37, 39] – 40(1971) +
- Report of Ionosphere and Space Research in Japan. Tokyo.
16(1962) – 25(1971) +
- Report of Operation Deep Freeze. Washington.
1955 – 1961.
- Reports. B. A. N. Z. Antarctic Research Expedition 1929-31. Adelaide.
Series A. Meteorology and Terrestrial Magnetism.
2(1-8)(1937-47), 3(1-2)(1937-40), 4(1)(1944).
Series B. Zoology and Botany.
1(1-4)(1937-54), 4-8(1953).
- Reports of the Geophysical Institute, University of Alaska. College.
5(1949) – [6-11, 13-17, 20-25, 30-32, 34-36, 38, 40, 42, 48, 51, 54, 56-59, 61-62, 66-68, 73, 75-78, 80, 88, 91, 94, 104, 107, 120, 129, 131, 135, 137, 141, 143-144, 152, 154, 159-160, 178-179, 182-183, 185-186, 188, 191, 193-194, 199-201] – 208(1969) +
- Reports from Kevo Subarctic Research Station. Turku.
1(1964) – [2] – 8(1971) +
- Research Paper. Arctic Institute of North America. Montreal.
2(1960), 21-22, 24, 29-33, 38, 45; 49-58(1970) +
- Research Report Series. Geophysical and Polar Research Center, the University of Wisconsin. Madison.
62(3)(1962), 63(1), 64(1, 3, 6-7), 67(1), 69(1)(1969) +
- Résultats Scientifique. Expéditions Antarctique Belgé. Bruxelles.
2(1-3)(19?), 3(1), 4, 5(1), 7-8(19?).
- Résultats Scientifiques. Expéditions polaires Françaises. Paris
Expéditions Antarctiques.
2(4)(1956), 3-5(1957).
Expéditions Arctiques.
4(1954-59).
- Results of Marine Meteorological and Oceanographical Observations. Tokyo.
38(1968) – 48(1972) +
- *Reviews of Geophysics and Space Physics. Washington, D. C.
9(1971) +
- Rezultaty Issledovaniy po Programme Mezhdunarodnogo Geofizicheskogo Goda. Moskva.

- Section 2. Meteorology.
2(1960)–[7]–18(1970)+
- Section 3. Geomagnetism.
2(1960)–[3]–12(1970)+
- Section 4. Aurora and Airglow.
1(1959)–19(1970)+
- Section 5. Ionosphere.
6(1961)–[7, 9–10]–19(1970)+
- Section 6. Solar Activity.
1(1961)–3(1968)+
- Section 7. Cosmic Rays.
2(1960)–12(1970)+
- Section 8. Latitude and Longitude.
2(1961)–3(1965)+
- Section 9. Glaciology.
1(1959)–[21]–23(1969)+
- Section 10. Oceanography.
1(1959)–[10–12]–21(1971)+
- Section 12. Seismology.
2(1959)–7(1967)+
- Section 13. Gravimetry.
1(1963)–[5]–6(1967)+
- Meteor Investigations.
1(1966)–2(1967)+
- Upper Mantle.
4(1969)–6(1967)+
- Resultaty Nablyudenyi Sovetskikh Iskustvennykh Sputnikov Zemli. Moskva.
33(1958)–[35–45, 48, 55, 57–62, 73–105, 110–113, 115–117]–118(1969)+
- Rhizocrinus; Occasional Papers. Zoological Museum, University of Oslo. Oslo.
1(1969)+
- Rivista di Meteorologia Aeronautica. Roma.
19(1–2, 4)(1959)–[20(2), 23(1, 3–4), 24, 25(1–3), 26(1)]–31(1971)+
- Rocznik Meteorologiczny. Warszawa.
1(1967)–2(1962)+
- Annuaire Météorologique.
1936–37, 1955, 1957, 1964+
- SCAR (Scientific Committee on Antarctic Research) Bulletin. Cambridge.
1(1959)–40(1972)+
- *Science. Washington, D. C.
155(1967)–[158(3803), 161(3836, 3843), 163(3868), 166(3936), 170(3956), 174(4006)]–175(1972)+
- *Scientific American. New York.
224(1971)–226(1972)+
- Scientific Reports. Australasian Antarctic Expedition. Sydney.
Series A.
1(1942)–5(1943).
Series B.
1(1925)–7(1947).
Series C.
1(2)(1937)–10(1938).
- Scientific Reports. British Antarctic Survey. London.
1(1953)–[28–32]–35(1962) : Scientific Reports. Falkland Islands Dependencies Survey.
36–[51, 54, 65–69]–70(1971)+ : Present title.
- Scientific Reports. Trans-Antarctic Expedition 1955–58. London.
3(1960)–[6]–16(1968)+
- Scientific Reports of the Whales Research Institute, Tokyo.
1(1948)–[6–7, 9, 11–13, 15, 17, 21]–23(1971)+
- Scientific Results. Norwegian–British–Swedish Antarctic Expedition 1949–52. Oslo.
1(1958)–[1(2D), 6(1–2)]–6(3)(1963).
- Scientific Results of the “Brategg” Expedition 1947–48. Bergen.
1(1956)–5(1965)+
- SCOR (Scientific Committee on Oceanic Research) Proceedings. La Jolla.
5(2)(1969)–7(1971)+
- Serie Científica. Instituto Antártico Chileno. Santiago.

- 1(1970)+
 Smithsonian Year; Annual Report of the Smithsonian Institution. Washington, D. C. 1958-63: Annual Report of the Board of Regents of the Smithsonian Institution. 1967-71+: Present title.
- South African Antarctic Scientific Records. Geophysical Series I. Hermanus. 1(1960)-12(1969)+
- South African Journal of Antarctic Research. Johannesburg. 1(1971)+
- Spacewarn Bulletin. Greenbelt, Maryland. 114(1970)-175(1972)+
- Steenstrupia. Zoological Museum, Copenhagen. 1(1970)+
- STP (Solar-Terrestrial Physics) Notes. Washington, D. C. 1(1968)-9(1971)+
- Suomen Kalatalous Finlands Fiskerier. Bureau of Fisheries Investigation. Helsinki. 40(1969)-45(1970)+
- TAAF (Terres Australes et Antarctiques Françaises). Paris. 12(1960)-[15-17, 22, 32-33, 50-51]-54(1971)+
- Technical Memorandum. National Research Council. Ottawa. 15(1950)-[16-17, 19-28, 30, 32-33, 35-36, 38-48, 50-55, 57-63, 65, 67-69, 71-73, 75, 82, 102]-103(1971)+
- Technical Paper. Arctic Institute of North America. Montreal. 1(1956)-[15]-23(1969)+
- Technical Report. Arctic Aeromedical Laboratory. Fort Wainwright, Alaska. 62(1, 7, 11-12, 23, 41, 46-47, 57-59, 63-64) (1962), 63(14, 18, 24) (1963) : Technical Documentary Report. Arctic Aeromedical Laboratory. 63(15, 22, 31)(1963), 65(4, 6-8, 10, 12-23), 66(1-14), 67(1-2)(1967)+: Present title.
- Technical Report. International Antarctic Meteorological Research Center. Melbourne. 1(1962)-[2]-13(1971)+
- Technical Report. Ronne Antarctic Research Expedition. Washington, D. C. 1(1948)-13(1955).
- Thalassia Jugoslavica. Zagreb. 1(1956)-6(1970)+
- *Transactions of the American Geophysical Union. Washington, D. C. 47(1966)-52(1971)+
- Travaux sur Pêcheries du Québec. Ministère de l'Industrie et du Commerce du Québec. 28(1971)-[30, 33, 35-36]-39(1971)+
- Trudy. Gosudarstvennyi Okeanograficheskii Institut. Moskva. 76(1964)-[77-79, 81-88, 95, 106]-107(1971)+
- Trudy. Vysokogornyi i Geofizicheskii Institut. Leningrad. 6(1967), 9, 12, 16(1970)+
- Trudy Arkticheskogo i Antarkticheskogo Nauchno-Issledovatel'skogo Instituta. Leningrad. 135(1963)-[136-142, 145-208, 211-212, 214-216, 219-223, 225, 227-234, 237, 242, 244-245, 247-248, 260, 263-254, 268, 271, 276, 279, 281-282, 287, 289-299]-300(1971)+
- Trudy Sovetskoi Antarkticheskoi Ekspeditsii. Leningrad. 1(1959)-[37, 45]-54(1971)+
- Veröffentlichungen der zoologischen Staatssammlung München. 14(1970)-15(1971)+
- Wiadomości Służby Hydrologicznej i Me-

teorologicznej. Warszawa.

1(2-4)(1947-49), 6(4-5), 7(1), 8(4-5),

9(1-6), 10(1), 12(2-3)(1964).

I(1965) - VII(1971) +

WMO Bulletin. Geneva.

9(4)(1960) - 17(2)(1968).

Zbornik na Rabotitie. Filozofski Fakultete

na Universitatot-Skopje. Skopje.

6(16-17)(1958), 7(1-12), 8(2-3), 9(1)

(1961).

Zeitschrift für Gletscherkunde und Glazial-

geologie. Innsbruck.

1(1949) - 6(1970) +

記載事項説明

例: Explorers Journal. Explorers Club.

誌名 刊行団体名

New York.

発行地名

40 (3) (1962) - [46(1)] - 50 (1972) +

卷号 刊年 継続 欠号の 継続 卷 刊年 継続
// 廃刊 卷号 卷号 受入

* 購入雑誌